愛國婦人會機關

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

愛國婦人

毎月二十日發行

一部金參錢一ヶ月　金六錢半年分參拾　六錢全國無遞送料

廣告料一行六拾錢

本號全部貳幣載

東京麹町區（牛ヶ淵公園）

發行所　愛國婦人發行所

發行兼印刷人　山澤俊夫

編輯人　手島益雄

電話番町五百二十番

◎本號には近衛家より宮中へ獻上の古代の花扇寫眞版附録を添ふ

社説

精神と衣服

着物は元來寒暑に對して身體を保護するが爲に出來たるものなることは、其必要なき野蠻人が年中裸で暮らし居るにても知るべし。然らば着物は外に何たる役目もなきかといふに左にあらず、追々と着出せば、様々の目的に着物は用ゐらるゝものにて、其中最も著しきは着物が精神の道具となることと是れなり。着物は身體が着ると同時に、精神が着るものなり。人間の生活は單調にあらず、喜びあり、悲みあり、家居平常の何ともなき時あり、儀式などにて改まる時あり。内に居て樂なる時は不斷着の着流しが相應にて、これを着居らば肩も凝らず、着物が氣分を樂にし呉るゝといふも差支なきなり。之に反して嚴かしき式場に臨むには、羽織袴、白襟紋付、又は金モールの大禮服、胸臂露出の婦人の洋服などが、相應にて、之を着れば、自から氣分も改まり心も引締り來るものなり。獨り着物に由りて着た本人の心持ち違ふのみならず、之に對する人の調子も變はるものなり。不斷着の人には、話も仕易く、氣も樂なれど、羽織袴扇子で罷出られては、此方も自ら切口上とならざるを得ず。即ち日常の出入より、冠婚葬祭等の儀式に至るまで、それ相當の着物ありて、言ふより先きに着物が知らせて彼我共に其覺悟を促すものなり。其他身分男女年齢に應じて、着物はあるものにて、衣骭に到り袖腕に到るは壯士の事にて、島田の娘には似合しからず、八十の老翁が振袖を着れば、人は氣違と思ふなるべし。大概は習慣より着物の工合ひは自ら分りて、裃を着て井戸を浚へ、羽織袴にて湯屋に行く者もなければ、そこは先づ安心なれども、熟ら世間を見るになほ甚だ其精神に副はざる着物を着、又は着方をせる者少からざるぞ口惜けれ。身の程を忘れて華美なるは品少く、年にも耻ぢず派手なるは厭ふべく、令孃の舞子の振りしたるは賤しむべし。木綿も品格に差支なし、唯其正しきを貴ぶ、皺くちやの折りなき絹物よりも、折目正しき木綿物を着たる方、その人の心の締りも見えてゆかしきものなり。着物は或度までは精神の代表者なり。己れは衣服の些末に拘泥せずといはゞ、豪らさうなれど、實は其人の心に秩序なく締りなきことを表はせるものなり。さらば婦人自らは勿論、世話する男子の着物までも、よく見合せて、場合に應じて相當なる風をして出さしむるやう心掛くべく、又他所行きは固より、不斷着まで、毎夜疊み置きて、毎時も折目立てるものを着せ、殊に不斷の物は屢々洗濯して、夏向きは殊に糊硬きものを着せたるは、主人よりも、家内が見上げらるゝものなり。之を反對に主人は云ふに及ばず、自らも「頭髪は亂髮て、スルメの足のやうなのが頸筋の邊にぶら〳〵と下り、衣服は裾が切れ、帶は心が見え、懷中を明け擴げて、米俵のやうな乳房を惜し氣もなくさらけ出し」て居るやうにては、いやはや話にならず、人よりは豚に近き方なり。衣服は外出の時に限らず、何時も取繕ひ居たきものなり、頭髮亦然り。要するに着物は決して忽にすべきものにあらず、其選擇及び着方如何は、大に人の精神を左右し又品格を昇降せしむるものなれば、何人を問はず、取り分け婦人は常に注意すべき所のものなり。

冷熱

或時北風と太陽と、其力の優劣に就て爭論じけるが、議論決せず、遂に旅人の外套を脱がしたる方を勝と定め、先づ北風は、强雨と共に身を切る如き冷風を吹き起したるに、何ぞ計らん旅人は、外套を脱ぐことは扨て置き、益々緊しく身體に纒ひ付けたり。次には太陽の番にて、密雲の間より顏を出し、嵐に打たれし旅人に、其光を注ぎかけゝるに、旅人は追々暑くなつて、たまらず、其外套を脱ぎ、遂には眞裸となりて、路傍の流れに水浴せりと。冷酷は溫和に及ばず。阿古屋も岩永の拷問に冷笑して、重忠の情には白狀せるにあらずや。邪慳に向ふ楯はありとも、情に向ふ刄なし。人を使ふにも怒りつけては働くものにあらず、怒らるれば、其場こそ恐れ入りたるが如きも、心中決して感服せず、見掛けは働く振りして、成るべく仕事をせぬ工夫をするものなり。之に反し充分の同情を以て人に接し、たとへ過ありとも人前にて之を罵らず、適當の機會に於て靜かに之を諭さば、當人も難有がりて、心服し、頼まれぬ事までも仕て、影日向なく働くものなり。すべて人の上に立つものは、こゝの呼吸が大切なり、姑の嫁に對し、主婦の下女を使ふも、みな然り。太陽と北風を待つまでもなし、論より證據、各實行して、其結果を見られたきものなり。

避暑

避暑は例外なり、少數者のするとなり、贅澤なる沙汰なり。百人中九十九人までは、用事、事情ありて避暑など出來るものにあらず、即ち大多數は避暑せざるもの、而して己れも衆と共に其中にあるものと心得、新聞雜誌などの避暑談を見て羨まるべからず。避暑せざるものは平氣で居るべし。暑を避くる必ずしも海岸若くは山間に逃ぐるを要せず、一趣を得るは多きに在らず、會景は遠きに在らず、盆池拳石の間に煙霞具足す、風月自ら賒なり、能く其趣を解すれば、蝸廬即ち是れ避暑の好適地。

自營心の養成

佐藤正

恒の產なきものは恒の心なしと云ふことがあるが、苟も社會に立つて生存して往く上からは、恒の產丈けは調へる事が必要である、既に恒の產を得たならば、夫れ以上富豪となるとならぬとは其人の運命にもよるし、其人の自由であるが、人としては獨立的生活を營むまでには必ず達せねばならぬ境界線である、凡そ人が己れの力に依つて獨立することの出來ない間は、社會に對して事を論ずるの權能資格が無いが、既に一家を整へる丈けのことが出來た上からは、社會に對し何んの恐るゝ處なく、縱横論議す可してある、此精神を持つて家庭に於ても常に兒童を敎育し、獨立自營と云ふことを幼少の時より見習はすと云ふことが必要である、それに就いて吾輩の心に深く印して忘れ難き一事がある、それは或る年山形市に宿泊したことがあるが、朝起きて宿屋の二階から往來を眺めつゝあると、十二三歳の子供が納豆を賣つて步行くのであるが、何れも皆美しい聲を張り上げて驅足で賣つて往く、買人があつた處で追駈て行かねば到底買へぬ程の速力なので、餘り不思議であるから下婢に聞いて見ると、彼の子供達は皆良家の子供であるが、幼少の時から獨立的氣象を皷舞せしむるために毎朝納豆を賣らすのである、所が早くしないと學校に行くのが遲れる爲め、聲丈け張り上げて走つて行くのである、故に必しも納豆の賣れる賣れないと云ふことには大なる關係がないのであるとの答へを聞いて、吾輩も甚だ感服した次第であるが、富豪の子が兎角役立たぬ人となるのは、要之幼少の時から依賴心が强くて、己れの力量で仕上げると云ふ考へが無いからである、人間は奮鬪的生活を經たものでなくては役に立たぬ、小供が獨りで轉んだのを親が助け起すやうな敎育の仕方では、役に立つ人は出來ぬのである、國民に獨立的精神があると無いとは國力の增長に深く關係を及ぼすものであるから、何うか家庭に於ても深く此點に注意して、獨立自營の人を作ることに心を注がれんことを希望す。

孤寂

（夫人を失へる人に代りて）

岩野泡鳴

庭の　青葉の
靜かげに
呼ぶ聲　あり　と、
立ち出でぬ。

呼ぶ聲　見えず、
この　孤寂、
わが　まぼろし　は
破れつゝ。

冥府　まで　暗く
透き通る、
その　思ひ出　の
心流れ。

去りにし　花　の
小姿　を、
それぞ　と　抱く
よしも　なし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

將來の日本婦人

貴族院議員 慶應義塾塾長　鎌田榮吉

昔から女子の身長は男子より遙に劣つて居るのが普通のやうに、何人も思ひ込んで居たものであつた。然るに近頃日本の青年男女の比較は身長に於て兩性間に餘り差がなく、從つて婦人の手足も昔よりは大きくなつて來たと云ふことを能く聞きます。是れは教育の進歩と共に女子も心身の自由を得たから、身體の構造が一般に發達したものと見える。最も英米にては近來男子より女子の身長が高くなつたと云ふ說が出て居る。生存競爭の結果男子は腦を多く使ふから身體の發達を妨げるが、女子は割合に氣樂な生活をする處から斯る現象に至つたこと〻思ふ。また女子の本職である裁縫料理等の技藝に於ても、昔から其最も勝れたるは男子であつて、女子には殆どないと云つてよい位ゐである。故に一方からは女子の腦力は到底男子に及ばぬといふてあらうが、自分の信ずる處では決してさうでないと思ふ。男子は永遠に其職を繼續し得るが女子の大多數は主婦となるから專門家となる者が甚だ少數なのである。其所で男女の中から其達人を求むる時は勢ひ男子に歸するのであるが、併し此頃のやうに身體に於て男子に劣らぬ女子の多くなるのを見ると、女子の腦力も亦男子に劣らぬものであると云ふことが明かである。今若し假に男女の位地を轉倒して生活せしめたならば、體力も腦力も男女同等の發達をなすであらうと云ふことは、甚だ信ずるに足る道理かと思ふ。

近頃日本では少し活動する婦人を見ると直ぐお轉婆と云ふが單に活動の方面のみを見て婦人をお轉婆と云ひ得るなら、男子も昔に比して甚だお轉婆になつて居るのである。男子も昔は容易に口を開かず又家緣の増加とか役の進むことでもあれは、三度辭して後漸く受けると云ふ風で、それが今なら即ち紳士の資格のやうになつて居たものである。所が近來は自ら代議士の候補者となり、他人と勝敗を爭ふとか、或は多人數の中で能く語り能く談ずる人を交際家と云ふ。此他時代の要求と共に昔に比して隨分出過ぎたことをして居るが、男子社會では我人共に少しも怪まぬ。さうして婦人にのみ此批評の烈しいのは、婦人社會にまだ活動家が少いからであると思ふ。何んと批評されても關はない。斯る婦人が多く出るやうにならねばいかぬ。世の進むに從つて婦人の社會的事業が漸々に増加して來て婦人の進歩と共に文明の度が進むのである。婦人が社會公共のために盡すべき義務を重んじて一身の安逸を計るとか、或は人の批評に頓着して居らる〻ものではない。彼の米國のストウ夫人が黑奴の虐待を見兼ねて、子供を抱きながら筆を取つたのは、有名なる「アンクル、トムス、ケビン」と云ふ小說である。此小說が二十餘國に飜譯され、世界の輿論を喚起して遂に南北戰爭の動機となるまでに至つたのは、即ち一婦人の筆が世界に活動したのである。現時の日本社會には婦人の力に依つて救ふべき、改良すべき、着手すべき仕事が至る所に澤山あるのであるから成る可く活動的婦人が多く輩出して、今日唱ふる所のお轉婆の意味を變へるやうにしては如何かと思ふ。

次に英米の男子は婦人との交際に依つて善く感化を受くることが甚だ多いので、兩性の品性を高尚ならしむる上に於て、男女交際は社會に取つて最も必要であると認められて居る。然るに日本では是れと反對に、男女の交際は墮落の基だと云ふて居る。是れは日本婦人の程度が卑いからであつて、立派な婦人の少ないのに基因して居ることである。異性相引くは人生の自然であるから、男女の交際は自制の力に富む國民、殊に理性明らかに品格高き婦人に依て始めて立派に行はれるのである。何人も知る如く英國の婦人は最も自制の力に富んで居るから、其結婚法の如きも他國に比して甚だ進歩的である英國の青年男女は自ら其配遇者を選擇して自ら交り、餘り他の關係や制裁を受けぬにも係はらず、不體裁を演ずることは他の大陸に比して甚だ少ないのである。日本に於ても將來は必ず男女の交際が盛んにならなければならぬ。然らざれば社會は不具なのである。故に日本の青年男女は人格の發達と共に堅固なる精神を養ひ、男女交際の結果不都合を來さぬやうにしなければならぬ。凡そ自制の力ほど確なものはない、夫れには英國の結婚法等は最も理想的であるから、文明進歩の階段として、是れを模範に必ず此所まで達する國民とならねばならぬと思ふ。

歐米の養樂事務

石井隣吾

▲劇場　歐米の都市に於きましては、養樂事務、是れは直譯でありますが、即ち劇場とか、音樂の合奏とか、公園とか、遊技場とか云ふことに非常に金をかけるやうに見て參りました。亞米利加には公園部と云ふ立派な機關が備へてありまして非常に金をかけて居る。遊技場でも其通り、其の一二を申上げますと、劇場は大陸の方が多うございますから獨逸の例を申しますと、人口十五萬以上の都市は十五の劇場は必ず持つて居る。是れは普通どう云ふ風にして都市が持つて居るかと云ふと、都市が劇場を建て〻私人に貸與する。東京市ならば歌舞伎座を建つて請負者に貸與しまして、お前が此處で演劇をやつて、若しうまくいかずして損失があつた場合には、幾らの金を補助してやる。若し利益があつたら當然無料で貸してやらう。斯う云ふ工合に都市が市民の爲に演劇をやらして市民を樂します工風をして居ります。

▲音樂　是れは此頃日比谷公園でもやつて居りますが、斯の如くに一週間に二回ぐらゐ、又毎日やる所もある。兎に角或時期を限つて一般市民に聽かして審美の思想を養つて、敎化的の道具に使ふと云ふ風で、紐育、などで其爲に使つて居る金は大變なものです。紐育のマンハッタンだけでも八萬圓位ゐ使つて居ります又桑港などでも非常に立派なものを作つて居る。其の計畫の說明に依ると二三萬の人が腰を掛けて聽くことが出來ると云ふことであります。その他ゴールデンパークと云ふやうな立派なものがあつて、市民が樂しむことの出來るやうになつて居ります。

▲公園　公園の事は入組んだものでありますが、殊に米國が熱心にやつて居るやうですが、此の公園に就てちよつと面白いことを感じました、英吉利の公園の作り方と、獨逸の公園の作り方と、佛蘭西の公園の作り方は、どうも違つて居る。どう云ふ風に違つて居るかと云ふと、英吉利の公園の作り方は野原のやうなもので、此方には池があつてボートを漕ぐやうになつて居る。此方には廣い場所があつて運動が出來るやうになつて居る。是れが英吉利の風でございます。それから獨逸に於ては、私の見た所の公園は非常に森が繁つて居る。伯林のチーヤガルチンあたりへ參りましてもまるで森林ですそれから佛蘭西へ參りますと、皆な木の頭を揃へて植ゑて刈込をして目で見て面白いやうに出來て居ります。幾らか日本風の庭園らしい風がある。是れで私の考へたのは、之を見ても自ら其の人情が分る、獨逸はどこまでも理窟ぽく出來て居る。英吉利は、何でも身體を拵へやう、命あつての物種だと云ふ風に運動の盛んな國で、御承知の通り運動家を國務大臣と同じやうに見て居る、即ち英人には三の大希望がある。總理大臣になりたい、金持の娘を貰ひたい、運動界に名を著はしたいと言ふて居る位で、非常に運動を重んずる國でありますから、公園まで運動的です。所が佛蘭西へ往くと、目に見て樂しい、此の一言で大概お分りになると思ひますが、兎に角公園と云ふことに付ては、何れも負けず劣らずに經營して居ることは驚くべきほどであります。

▲遊技場　是れは倫敦に於ては、二百八十四のクリケットをする場所がある、さうして倫敦市で金を出して造つて居る、又三百三十四のテニスコートがある、是れも市で金を出して居る、それから四十五の氷すべりの場が出來て居る、四つのゴルフ、是れは小さな球を棒でた〻いて向ふへ投げる、さうして段々向ふへ行くのですから、大變廣い所でなくては、出來ぬのでありますが、それでさへ四つもある、それから矢張球遊びの一種のクロースと云ふのが四つも出來て居る、それから單純に球を投げて遊ぶ場所が三つ、斯う云ふやうに大變な數の遊技場があります、是れも私は養樂事務の中に數へて公園などゝ共に非常に進んで居ると見て參りました。

▲愛國婦人と女學校▼

近時女子の讀むべき雜誌澤なりと雖も、惜むべし彼等は時流に投ぜんことにのみこれ力め、不健全の文字を羅列するに過ぎして一も清新の氣風を養ふに足るもの莫し、この際三重縣高等女學校に於ては文部大臣の訓令に基き、是等の雜誌を斥けて獨り吾が『愛國婦人』のみを購讀するととなれり、吾等敢て弊紙を以つて當代唯一健全のものなりとは信ぜざるも、平素期する所の主義聊たりとも其光りを發したるを欣ぶものに候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

歸省

武田櫻桃

僕は僕の姉さんが「歸省する」と云ふ手紙を遣してからと云ふもの、毎日その日を待兼ねては、それは未だ見える筈はないと思ひながら、ついぶら〳〵と門へ出て、能く笑はれ〳〵したのでした。この間僕の胸に浮むのは、姉さんはまア肥つたらうか、それとも瘠せたか知ら、歸つて見える日の姿はまア甚麽だらう、一年も都へ出て居れば、もう去年の姉さんではあるまい、色も白くおなりだらうし、言葉も何處か都らしくおなりに違ひない、僕には何のお土産があるだらう、櫛か知ら、リボンか知ら、まアいゝわ、そんな事、それよりも姉さんは僕を去年の妹のやうに可愛がつて下さるか知ら、僕の云ふ事なんぞ聽いて下さらないか知ら！

五日六日こんな事を想つて居ます中に、今日はもう姉さんが歸つて來る日、有繋辛抱强い阿母さんも、其朝ばかりは嬉しかつたと見えて、いつもより早起き、正午までには屹度彼が歸つて來る、嘸お腹も減いて居るだらうからと、昨夜刻んで煑て置いた、蓮や蕈や薄燒の卵子なんぞを、炊き立ての御飯と混ぜて醋を注して、もう九時頃にはお鮨までちやんと拵へて、時計ばかり見て居るのです。

僕はまた、今日こそ一年振に姉さんの顏が見られるのだと思ふと、何となく嬉しいやうな、そして何となく恥かしいやうな氣もするのでした、俥の音に駈出して見たも、人の跫音に驚かされされた事も、二度や三度ではありません。意地が惡いと云つたら、人を門に立盡すまで待たして置きながら、其影が見えた時は、妙に取澄して、懷かしい阿母さんや、僕の居るのも知らぬ顏に悠りと歩行いて來るのです。

僕はもう耐らなくなつて駈出して行つて「姉さん、お歸りなさいまし！」と云つた限り、其蝙蝠傘を姉さんの手から捥取ると阿母さんはまた駈け出して來て「八重かえ、まア甚麽に待つたらう」と姉さんの頭から褄先まで見上げ見下して、鞄をまた姉さんの手から捥取るやうに！それでも、姉さんは別に嬉しさうな顏もせず、僕の方を見て、「艶ちやん、まア一年見ない中に、大變大人振つてしまつたのね」

から云つて口を禁んで、門から玄關の方へ來るのでした。阿母さんは獨りてはしやいて、阿父さんまで玄關へ呼び出して、「まア、此鞄を持つて、能く此處まで歸れたね、重かつたらう、停車場が近いつて俥があるだらうに」と云つて見たり、「其髮にお結びだから顏違ひがしてしまつたよ、家に居た時から見ると、何だか學者振つてしまつたぢやないか」なんて誰に云ふともなく、饒舌りながら、納戸まで來ると、氣が注いたやうに、「八重、今日はね、お前の好なお鮨を拵へて置いたからね、澤山食て下さいよ」

云ひながらもうお膳の仕度にかゝるのでした、僕は懷かしい姉の顏を見て居ながら、何となく姉さんが自分を田舍者と見下げはしまいかと云ふやうな氣もしますので、碌々口も利けません、今に姉さんの方から、何とか云つてくれるだらうと、それを待つて居たのですが、姉さんはまた妙に沈み切つて、僕の顏を見やうともしないのです。

「姉さん、大變瘠せたことね」と云ひますと、僅かに輕く頷いて、「隨分瘠せたでせう、でも、艶ちやんは丈夫で結構よ！」

話はもうこれ限り、四人は一年振りに一つ食卓に對つたのですが、姉さんは什麼したのでせう、あの好きだつたお鮨を一膳しか食べないのでした。阿母さんは、「餘り身體が疲勞れて居ると、餘計に食べられないものだから、又後に少し沈着いたら澤山おあがりなさい」と、皆が御膳をしまふと、着換へを其處へ出して、「少し横になつたらいゝだらう」さう云へば阿父さんも、姉さんの顏を見ると嬉しいと云ふ莞爾よりも、心配らしく鬱ぎ切つて、御膳の間も餘り口數をお利きになりませんでした。

姉さんのお土産は浴衣が一枚に半襟が一懸、夫に簪まで添へてありました。

僕は寐る時に、姉さんに厚く禮を云つて、そして「いつまで家に居るの」と聞きますと、姉さんは又妙にほろりとして、「姉さんはもう、東京へ行かれなくなつしまつたの」と云つて、僕の手を把つて泣いた、ア、、姉さんは病氣なのでした！

（完）

東西名婦傳

マヂソン夫人

松浦政泰

▲夫人の夫は米國第四回大統領マヂソン氏、前後十二年間、大統領の官邸である白館の女王として、米國第一の人望を收め、中央交際界の花として内外に持囃され、政治家の妻としては理想に近いものと思はれる。茲に夫人の二三の逸話を逃べて見やう。平和克復の今日に最も大切なのは、交際かも知れないから。

▲田舍の女　或時二人の田舍女が夫人の友人に伴れられて白館を訪ふたが、丁度朝飯時分であつて、鼠色の硬ばつた服の上に、大きい家庭用の白の前掛を掛け、麻のハンケチをピンで首に止めた一人の女が出て來た。田舍女はこれは下女だと思つて居ると、全くマヂソン夫人であつたので、一旦は吃驚したが、餘り服裝の粗末なのと高ぶらないので、却て恐怖さが無くなり、いよ〳〵辭し去ることゝなつた時、一人の田舍女は『私は貴女に接吻をして大事ないでせうネ。歸つて話の種にしたいですから』と切出した。夫人は優しい謙遜な方だから、其願意を聞屆けられた。

▲田舍の青年　又或時一人の田舍の青年が、晩餐會に召ばれたが、禮儀に馴れない所から、フオークやナイフの使方にも仲々氣骨が折れたらしかつた。終りに珈琲が出て、件の青年はアハヤ其コップを取て呑ふとするとき、生憎マヂソン夫人が歩を此方に枉げて話を仕掛けたので、大に周章まごついて、不圖コップを取落し、益々狼狽の體で餘所の見る目も氣の毒であつた。夫人は少しも之を意とせないやうに、唯『御席が狹うて推し合ひますので御迷惑で』と挨拶し、直に話を轉じて其青年の家族の事を聞き、其母親に宜しくとの傳言を賴みなどし、給仕に命じて再び珈琲をもつてこさせた。

▲歡待周到　ウイリヤム・プレストン尚靑年の時、大統領夫婦に敬意を表する爲めに白館を尋ねた、應接間に入ると並み居る紳士淑女の綺羅びやかな姿は、彼方此方鏡に映じて、目映しい程であつて、マヂソン夫人は嗅烟草箱を携へて其中央に座を占めて居たが、プレストンの入來るを見て、つか〳〵と進み來り、左の手を擴げて『貴下がウイリヤム・プレストンですか。あの私の舊友で最も愛する親戚のサリー・カムベルの御子息で、マア御掛けなさい。私の子息――ホンに貴下は私の子息同樣です。私は此世で一番に貴下を見た者ですから』ウイリヤム出產の時夫人は其傍に居たといひながら、如何にも親切に溢れた態度で、其傍の二三の年頃の娘達に向ひ『この方が貴下の御親戚のサリーの子息さんで』と、一々何か話の緒を拵へて丁寧に紹介した。

▲交際振り　ララ・ボルトン女史夫人を評して「夫人は少しも高慢の氣なく、萬事調和を旨とし、巧に旨く成功した。顏といふ顏を覺え、名といふ名を覺え、在ゆる來客の履歷に關聯する些末の事變をも記憶し、直ちに之を談話の材料として、益々交誼を厚ふした。其の服裝も其の態度も其の言語も、曾て一度も批評を受けたとがなかつた。其の境遇に同化する力は非常なもので、父に對しては愛らしい娘、マヂソンに對しては萬の事の內助者、國民に對しては人民の叮嚀な婢、隨て人民の首領であつた。」と曰つて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

博愛

幹事　浦月子

愛といひ、慈悲といひ、仁といふ、東西古聖の本とする處の格言期せずして一致して居ますするは何故で御座いましやう、抑愛と云ひ愍みといふは自分の爲に申すのでは無く、則其の物の爲に申すので御座います、誠の愛は敵をも愛し、心なき草木をもいつくしみ、鳥獸蟲魚に至る迄なさけをかけ、さては國家を愛し世を愛するといふことに至るので御座います、感情に依りて憎惡の念をおこし慈愛の心を生ずるは、皆皮相の觀で御座いまして罪ある者をも愍み、己に敵たふ者をも愛すると云ふ事は餘程心を廣く持たねばならぬことゝて御座います、一國の本は一家又一個人で御座いますから、家を治め敎育に心を用ゆるは何より大切の事で御座います、敎育は子女にのみ止まらず、成る可くは雇人の上にも感化と實踐の敎導を致しましたならば、其の及ぼす所の影響少々ては御座いません、第一博愛と云ふことを常に心に願みて諸事萬物に及ぼしたい物で御座います、キリストは十字架に上り、おのれに罪をおはせし人々の爲に天に祈り、彼等の罪を贖ひしと申す事で御座います、實に至大の愛では御座いませんか、我身の情欲より人を愛憎するはつまり見る處の狹きが故で御座います、誰も能く申す事で御座いますが、一家の整理はやがて一國の政事にも及ぼすので御座いますから、健康を保つ事に注意して、主婦たる人は常に一家の先導者てなければならぬ事と存じます、此頃は衞生をやかましく申すやうになりまして誠に結構な事と存じます、處が何卒これを實地に行ふ機に精々心を用ひねばなりませぬ、人々生活の度に從ひまして、交際の爲め又は子供多き爲め、萬事に手を下す事の出來ぬ人も御座いましやうし、病身にて意の任せぬ人も有りましやう、萬端自分に先導して出來る人は結構で御座いますけれども、前申したやうな譯で差支の多い人に有りましては、人手を借りるより致し方が御座いません、されど主婦たる人は充分注意して常に氣樂に任し置く樣の事なく、指揮見分等怠りなく使ふ人をも勵まし、怠惰に流れしめぬやう勉めねばなりませぬ、下婢を酷に使ひまするは誠に宜しからぬ事で御座いますけれども又なまけ者にしてしまひますのは猶宜しくない事と存じます、其の使はるゝ人の樣子によりても主人の平生が思ひやられます、順序と規律を立てまして臨機の處置を取ります杯は大切の事で御座います、何事も深切を以て計らひますに不足を申す者もなかるべく、たとへ一時人の氣に入らぬ事を申すやうにても、後に至り願みる事も有りましやう、先づ自分の良心に反かぬ樣感情の愛憎をすてゝ誠の愛、誠の慈悲を忘れてはならぬ事と存じます。

氷と汗

ドクトル　川瀨元九郎

此頃の降り續く雨が晴れて天氣が好くなりますと、急に暑さを增してお互ひに一時は苦められることでありませう、すると例の氷と云ふ奴が得意顏になつて、吾れ吾れを誘惑しやうと謀りますに相違ありません、こゝに氷と吾れ〳〵との戰爭が始まるのであります。

氷を用ゆる習慣が附きますと、氷を用ひなければならぬほど暑くない時でも、氷を用ひたくなるやうになります、否な氷が無ければ暮らせないと云ふやうになります、すると自然に食慾が減じ、又た暑さの爲めに睡眠時間に不足が出來て來て身體の勢力がなくなります。

夏は成るべく澤山に汗を出すのが身體の爲めに宜しいのでありますから、骨惜みをしないでドン〳〵身體を働かせ、汗が出たらば冷水なり溫湯なりで身體を拭ふて、淸潔にするのであります、少しの注意で以て、夏を無事に且つ愉快に過すことが出來るのであります。

暑い〳〵と云つて、氷やアイスクリームや、ラムネなどを澤山に用ひたり、また夜更しをしたり、身體を働かさないで、蒸し暑い夜なぞには夜具を蹴り出す爲めに、夜明け方の冷氣に打たれて感冒に罹かり、胃腸加答兒を起すやうな危險が間々あります、單純な胃腸加答兒なら恐れることはありませぬが、赤痢やコレラと云ふやうな猛惡な疾病がありますから、注意して居らなければなりません、何事も始めが大切であります、最初に於て少し辛棒すれば、惡い習慣をつくるやうなことはないので有ります。

愚圖〳〵して居りますと、必ず病氣に罹るのでありますから、この邊に心を注がれんことを希望いたします。

銷夏號發刊

吾が「愛國婦人」は來る八月二十日發行第百拾號を以て銷夏號となし、左の規定に依て諸姉の投稿を滿載いたす可く候

一夏の敎訓　文學士　下田次郎氏　選

人は春夏秋冬自然の變化を受けずして居らるゝものにあらず、夏は果して如何なる敎訓なるか、諸姉の感想を承りたし

一夏の簡易なる小兒寢衣　ドクトル　川瀨元九郎氏　糸左近氏　合選

衞生的小兒の寢衣としてはドンナものが一番適當なるや、諸姉の考案を提出されたし

一短篇小說　武田櫻桃氏　江戶靜川氏　三島霜川氏　合選

家庭的、または心靈的のものなれば文體はドンナでもよし、一行十八字詰百二十行以下にして總ふりかなを附けられたし

一小兒の夏の暮し方　高島平三郎氏　選

永い夏の日に、學校も幼稚園もなく、まりとて遊んでばかりも居られず、どう暮らすが一番良きか實驗又は考案を寄せられたし

一半ヶ年の家計　有島幸子刀自　選

明治三十九年の中半は過ぎた、主婦はこの半ヶ年の家計をドンナに處理されたか、豫算と決算とを對照して聞かされたし

右投稿はいづれも七月三十日限り固く締切り申し候

尙當選の諸姉に對しては聊かながら御報酬呈上仕まつる可く候

投稿を募る

婦人と洋服

洋服師　增田保

▲洋服の流行　近來は洋服を着る方が非常に殖へて參りました、何故斯う洋服が流行仕出して來たかと申しますと、是れも矢張り戰爭の結果でありまして、從前は餘り洋服などを着なかつた商人方までが、軍隊の歡迎に是れを用ゆるやうになりましたのが原因で、着て見ると至極便利で調方である所から、鳥渡と散歩に、出るにも脊廣位ゐを着られます、其の風が甲から乙、乙から丙と傳つて今日の盛況を見るに至りましたので、この夏などは別して注文が多くあります。

▲婦人の洋裝　次に洋服の流行は單に男子の方面ばかりでなく、婦人社會に於てもまた日增し流行の兆があります、既婚婦人には左程でもありませんが、未婚婦人——殊に女學生が最も多く着用せらるゝやうになりました、然るに婦人服專門の洋服師は唯今の所東京に三軒しかありませぬので、この三軒は昨今非常に繁忙を來して居るやうな次第であります。

▲廉價で便利　婦人社會で洋服が用ひらるゝやうになつたは何う云ふ譯かと云ひますと、第一廉價で出來るのと便利であるとに基きます、上等になると際限がありませんが、普通女學生の着用せらるゝ位ゐのものですと、十圓內外で新調せられます、和服ですと十圓位ゐ出したのではさう立派な物は調ひません、まア廉い帶一本の代價で出來るのですから此のくらゐ廉いものはありません、殊に婦人服は男子服のやうに身體にピッタリ喰ッ附いて居りませんで、ゆとりが澤山にありますから、夏などは日本服を着て其の上に厚い帶を締めたよりは涼しくもあり、且つ旅行をしたり、學校に通つたりするには至極便利である所から、自然洋服が用ひらるゝやうになつたものかと思はれます、この傾向から推し量つて見ますと、四五年內には一般の婦人に用ひらるゝやうになり、家庭に於ける働き服にまで洋服が用ひらるゝでありませう。

▲衞生的服裝　兎に角婦人社會に洋服の着用者が殖へて來たと云ふことは慶すべきことであります、日本の婦人服は優美て宜いと申しますが、アノ廣い帶を締めることなどは決して身體の健康に善き結果を與へるものではありません、故に私は早く婦人服專門の洋服師が澤山に出來て、さうして益々廉價に調製して、一般婦人に便利を與へるやうになりたいものであると思つて居ります、尤も洋服も大人のは胴中を締めますから、あそこはまた日本で一工夫して衞生に叶ふやうにしたら宜いと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉理事顧問會　七月四日午後二時より本部に於て理事顧問會を開會せり出席者は岩倉會長、理事毛利、近衞、大山、岡部の諸氏顧問には岡部子爵出席せり

◉評議員會　七月十一日午後二時本部に於て開會せり出席者は岩倉會長近衞岡部の兩理事評議員酒井夏子小笠原秀子鍋島易子清浦錬子濱尾作子佐藤猶子有島幸子森村菊子小浦義子渡邊いね子豐島文子仁尾繁子中山幸子仁杉歌子柳谷千代子内山訓子三井榮子郷濱子山脇房子税所永子大迫隆子藤井德子大谷かち子新山雅樂子の諸氏なりき

◉授産事業引受　東京府下に於て兼て戰爭中經營せし軍人家族授産婦人會は日露戰爭終局に伴ひ解散すべきについては現在の不動産に現金五百圓を添へ本會に寄附し該事業の繼續方申込み來りたるを以て之を引受ける事に本月の評議員會に於て決定し漸次遺族を勸誘し生業を授けんとする計畫なり

◉救護費の分配額　本月開會の評議員會に於て三十八年度救護費分配の件を決議せり

◉岡山盲啞者救護所に補助　岡山縣に設立する軍人の盲啞者救護の爲め補助金請求の件を本月の評議員會可決し一人の入院者ある毎に對し一ヶ年金拾貳圓づゝ補助する事に決定せり

◉紀念章牌　表面には總裁殿下御肖像を彫刻し裏面に「日露戰役の鹵獲砲製愛國婦人會と彫刻し個數々萬個を製し尚ほ純金製及純銀製銅製の副章をも調製の事を評議會に於て決議せり

◉銀行指定　本會の基本金の一部を預からしむる爲め評議員會に於て加島銀行を指定銀行に爲す事を決議せり

◉奥村刀自　奥村五百子刀自本會創設の企あるや卒先して其成立に參畫せられ明治三十六年二月本會の設立を見るや病體を忘れ寒熱を冒し夙夜孜々として全國に遊説を試み一日として席温まるの暇なく以て今日に至れり然るに病根未だ痊せず醫師の休養を勸告する事切なるにより今般其郷里唐津に歸郷し暫く靜養することゝなり明二十一日東京出發歸郷の途に着く筈なり

◉顧問堀内文治郎氏　本會顧問たる參謀本部附陸軍歩兵中佐堀内文治郎氏は今般歩兵第五十八聯隊長に任ぜられ(韓國平壤)來る二十四日出發の筈なり

◉堀内奥村兩氏送別會　奥村氏は暫く郷里に靜養せらるゝ都合にて當分上京さらるゝ事なく堀内顧問も韓國平壤の聯隊長に赴任せらるゝを以て慰勞會並に送別會を去る十七日午後三時より九段偕行社内に於て開會せり出席者は岩倉會長始め理事評議員顧問等五十餘名にして極めて盛會なりし

我が會の顧問たる陸軍歩兵中佐堀内文治郎君は久しく參謀本部の樞要繁忙の地に在りながら本會創立の際より倦まず撓まず能く援助せらる今や韓國平壤の聯隊長に榮轉せらるゝは可惜の至りなれども官命もだし難し抑も君の本會に對して盡されたる功績たるや實に偉大にして本會は永く之れを銘記して忘れざらんとす尚本會の爲め韓國に在ても從前に渝らず盡力あらん事を希望し併せて爰に君の榮轉の行を送る

次に我が會の首唱者たる奥村五百子刀自は病を養ふ爲め暫く郷里唐津に歸臥せられんとするに際し一言慰勞の辭を呈せんとす抑も本會の紀元は明治三十二年刀自が北清事件に於ける軍隊慰問の際に兆し戰場の慘憺たる光景を實見し皇國の御楯となりて戰場に殪るゝ人の遺族を救助するは巾幗社會に於て爲すべき慈善的一大任務なりと觀取し歸來同胞姉妹に訴ふるに「願くは君達が半襟一掛の用を節し其資を積みて之に充てよ」と唱道盡力せられたるに起り三十四年二月本會を組織してより以來刀自は本會の發達につとめ東奔西奔席温まるに暇なく炎天身を燒くが如き夏の日も寒冷指を落すが如き冬の日も遊説勸誘に勤め日露の役には奮然として老軀を起し、遠く滿洲の地に渡り戰地の實況を視察し軍隊の勞苦を慰問し歸られたり今日我が會の盛況を來し着々其功を奏するものある所以は一に刀自の熱誠なる盡力に待つ處多大なりと云ふへし今や尚一歩を進めて本會の大擴張を計らんとするに當り刀自宿年の病痾未だ治せず醫師の勸告に從ひ靜かに郷土に歸り疾を養はん事を請はる本會の爲めには惜しむ可きの至りなれども強て刀自の病軀を煩はすは久子等の忍ぶ能はざる處乃ち刀自の請を容れ靜養を勸む刀自夫れ安念靜養せられよ玆に一言を述べて刀自の勞を謝し併せて其歸郷を送る

會長　公爵夫人岩倉久子

◉遊説員派遣　本會遊説員富樫眞喜子氏は七月九日より靜岡支部内遊説中なり次に本會遊説員野中彌知子氏は三重支部内に遊説の爲め來る十八日出發の筈なり

◉寄附金　其の後十圓以上の寄附金者左の如し

一金百圓　岡山　金光喜代
一金七十五圓　丁抹國　ドレーシング
一金七十圓　山口縣厚狹郡小野田村　元婦人奉公會
一金五十圓　岡山　金光三代太郎
一金五十圓　清國昌圖　故常鳴九夫人李氏
一金三十八圓餘　獨乙國　キーベル、ロット氏
一金二十三圓餘　獨乙國　キンベル、アルベルト
一金二十圓　大阪　十合貴美
一金十五圓　神田區　齋藤勝子
一金十五圓　岡山　藤井鹽野
一金十五圓　岡山
一金十圓　匿名婦人

右匿名婦人とあるは本月六日三十許の一婦人本會に來りて寄附せられたるものにして住所姓名を尋ねたるも唯本會員の一人なりとて姓名も告げず歸られたり又右の外金五十圓東京支部へ京橋幹事部より慈善演藝會收益金の内より寄附せらる

◉其職に殪られたる會員　富山縣中新川郡滑川郡村神保かき子氏(安政二年生)は卅六年六月奥村刀自東北遊説の際卒先入會し爾來幹事の職に就かれ會員を募集盡力する事につとめ戰爭中は軍人の迎送に從來し軍人家族の慰問等專ら盡力せり然るに本年四月七日同縣招魂祭を縣廳構內に開かるゝや遺族接待の任を帶び幹事部より態々出張斡旋中式の央に於て突然腦出血症の發病をなし爾來富山病院にて昏睡の儘四月十一日死去したりと云ふ實に追悼の至りなり夫神保東作氏は土地の名望家にしてゆき子氏の爲めに雅客の和歌を乞ひ受け紀念小冊子とし配布せしよし近衞理事の贈られし和歌は左の如し

近衞貞子

くにのためたふれし人をまつらんと
みもなきかすにいるそかなしき
ちはやふる神もうれしくうけぬらん
みなゝふるまてつくすまことを

愛國婦人會々員女子人口比較表　(明治三十九年六月末日調)

支部名	特別會員	通常會員	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	賛助員
山口	八二〇	二六、三三七	二七、一五七	五〇六、九二〇	五、三六	一、〇七五
石川	一、七六四	一八、七二八	二〇、四九二	三八五、四七八	五、三二	七八〇
山形	八二二	一七、二七七	一八、〇九九	四三九、六一八	四、一〇	一四三
岡山	一、〇四〇	一九、七〇四	二〇、七四四	五七七、二七二	三、五九	三六三
熊本	二、八二一	一六、六五五	一九、四七六	六一〇、四一一	三、一九	二、三〇二
富山	八一三	一〇、六八三	一一、四九六	三八四、九八二	二、九九	六四三
京都	二、一一九	一三、四九四	一五、六一三	五二一、三九五	二、九九	三六九
群馬	一、三七三	一一、七四三	一三、一一六	四五四、一七一	二、八九	一一四
愛知	一、一八八	一三、七四三	一四、九三一	八六八、五三八	二、八七	六三一
香川	八二二	二九、〇八三	二九、八六六	三四七、八九〇	二、八四	三四七
兵庫	二、〇五〇	二三、一二七	二五、一七七	八九三、七三四	二、八二	四八〇
福岡	二、四〇三	一八、九六七	二一、三七〇	七七二、七四三	二、七七	九五四
北海道及函館	二、七三八	一一、二九九	一四、〇三七	五〇七、六三八	二、七七	一、〇五八
長崎	三、〇七九	九、九九七	一三、〇七六	四八九、三五〇	二、六七	五二
宮城	一、四三四	一〇、二七六	一一、七一〇	四四五、〇四七	二、六四	七〇七
愛媛	三五九	一二、二二二	一二、五八一	五一一、三九六	二、四六	二八三
青森	一、〇五三	六、六二四	七、六七七	三二二、二一一	二、三九	二四[illegible]
大分	[illegible]	九、四九七	一〇、二九五	四三〇、〇二五	二、三九	四一七
神奈川	一、三七〇	一〇、三九九	一一、七六九	四九九、六二三	二、三六	二六二
佐賀	八二二	六、三九〇	六、六二六	三二七、六七八	二、一九	一九四
奈良	二九八	五、六八三	五、九八一	二七八、一九三	二、一五	三二一
高知	二五三	六、四二六	六、六七九	三一八、二四一	二、一〇	六一三
三重	三九四	一〇、四二六	一〇、八一六	五二二、〇四五	二、〇七	三四三
福井	八〇〇	五、[illegible]二六	六、六二七	三二〇、一五三	二、〇七	九八八
岩手	六五七	六、八六六	七、五二三	三六九、二七四	二、〇四	二〇六
宮崎	二四〇	四、七四六	四、九八六	二四七、二五八	二、〇二	四四七
島根	二九五	六、九七九	七、二七四	三六二、六三二	二、〇一	四二〇
滋賀	四七九	六、五九〇	六、〇六九	三六四、六八五	一、九四	二、七五五
福島	一、一三九	九、四四二	一〇、五八一	五八二、一五八	一、八二	五二五
東京	七、一九五	一一、九一七	一九、一一二	一、一五七、五一六	一、六五	五一二
德島	三一二	五、四三三	五、七四五	三五二、六〇四	一、六三	七三
大阪	二、九一二	一〇、八八六	一三、七九八	八六三、四〇八	一、六〇	一、〇二三
廣島	一、三九二	一〇、〇三三	一一、四二五	七四六、六五五	一、五三	七〇一
千葉	九五九	八、三九一	九、三五〇	六五六、七八五	一、四二	二八〇
茨城	五三〇	六、九三〇	七、四六〇	六〇〇、四一二	一、一八	五[illegible]
山梨	二七四	二、九四九	三、二二三	二七二、一四三	一、一〇	一三四
鹿兒島	一、〇三一	五、三一六	六、三四七	五九四、九八八	一、〇五	三三五
和歌山	二六二	三、二一六	三、四七九	三五〇、〇六五	九九	三七一
秋田	四七九	三、五八三	四、〇六二	四〇三、九四九	九六	一、二六九
鳥取	一六一	一、八七七	二、〇三八	二一七、五四六	九四	三六九
岐阜	六四一	三、七七一	四、三五二	五〇二、六五一	八七	四一九
埼玉	三五一	四、八九九	五、二五〇	六二七、五五八	八四	三九四
沖縄	三一九	一、三〇八	一、六二七	二三九、五二六	六八	九[illegible]
長野	四七六	三、九五〇	四、四二六	六七四、七一七	六六	五一九
靜岡	四九六	三、五九九	四、〇九五	六四〇、八四五	六四	七一
新潟	六七二	四、三三四	五、〇〇六	八九九、〇二八	五五	八一九
栃木	二八四	一、八一九	二、一〇三	四五〇、一二一	四七	一六三
臺灣	一、〇六九	三、二四四	四、三一三	一、四〇二、七七六	三一	八、一一三
海外	七三二	二、一二二	二、八五四	|	|	二、六七六
合計	五四、七五二	四四八、七〇三	五〇三、四五五	二五、三一三、〇四〇	一、九八	三六、四一七

備考　支部の配列は會員比例數の多きものより順次配列す
北海道及函館の兩支部會員は合算して掲載せり而して函館支部會員は特別會員四百九十二人通常會員千六百九人にして他は北海道支部會員數なり

○正誤　六月二十日發行紙上に掲載中滋賀支部會員數六千四百九十九人とあるは月賦會員のみにして外に一時出金者五百四拾名を脱漏せしに付訂正す　○報告未着の支部は最近の報告に依る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會

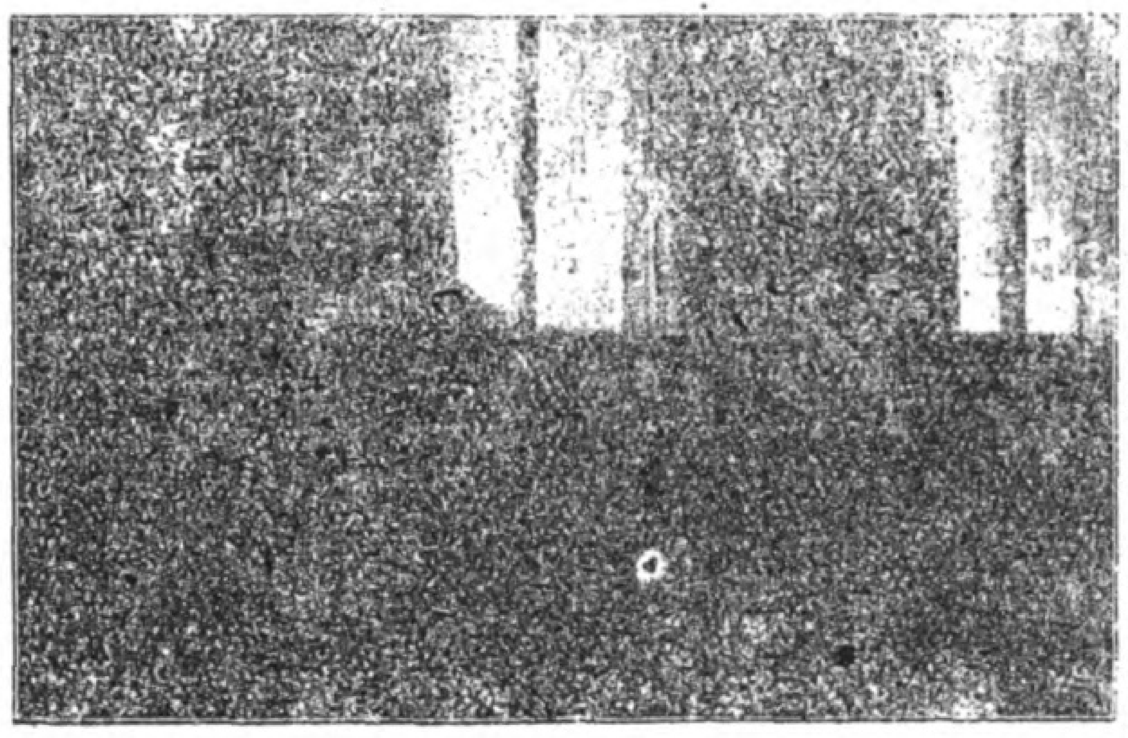
小兒の保護と其救護事業（下）

文學士　下田次郎

巴里には小兒救護院といふて、巴里の南部ダンフェール、ロシュロー大路にある、（明治三十五年二月七日參觀）。此所は棄兒、貧兒、孤兒を收容し、又日中子供をも預る。一體佛國は、人口が餘り增さず、寧ろ減ずる傾がある、佛國では生活の困難とか、他所並みとかの理由で多くの子供を有つを欲せず、人工の避姙を行ふて二人の子供に止める親が隨分ある、親二人に子二人ならば、人口は殖へぬ譯である、巴里などでは申し合せたやうに二人以下の子を有つて居るものが多い。そこで國家の繁榮上、國又は市などが、棄兒を收容し、又は棄てぬ前に持て越さして、之を公費で養育し、以て人口の增殖を謀つて居る。此巴里の小兒救護院は、其主なる收容所の一つであつて、內に棄兒養育院がある、行つた時には十五六人の棄兒を收容し、乳母が附いて乳を吞まして居た、又月足らずの子をも保育する器が二つあつた。救護院の入口には子供受取所がある、棄兒は警察が拾ふて持て來る、又は母が子を渡すのもあり、親が默つて持て來て置くのもある、棄兒養育院の傍に別に一棟の傳染病室がある。

又本館には幼い孤兒を收容して居る。長い室に三歲以下と思はれる子供が、三十餘人一方の窓に沿ふて一列に椅子に腰を掛けて居り、中央に木馬が置いてあつて、保姆が二人附いて居つた、子供の行水もしてやる、又寢室が澤山あつて、病氣の傳染を慮り、各室の中に硝子の仕切りがあつて、四隅に寢臺が一つづゝ五十近くも置いてあり、乳母や保姆が多く附いて居る、此外母父が日中勞働の爲め、子供を預ける所があつて、三歲位までの子供が三十人位居つた。二室に仕切つてあつて、運動遊戲も出來る、行くと子供が握手せんと爭ふてやつて來て、中にはお菓子を呉れとせがむ者も居た。又赤兒から一歲位までの子が二十八人預けてあつて、子車にねて居た。父母の病氣中又は極貧で、其子を預るのもある。

大きな子供には男女の寄宿舍が別々にあり、其內に敎場もあつて、普通敎育が授けられる。女兒は十歲前後の者が四十餘人居り、女敎師と助敎の女と二人で授業して居た。男兒の方は五十餘人の一級があり、別に十三四歲以上の者十人計りの一級がある、食堂は餘りきれいではない此兩寄宿舍は家も古くて、むさくるしい、二階から四階までは寢室である、寢床は清潔で、左右の窓に沿ふて並んで居る。大きな男の子の寢る所は、談話を防ぐために分房となり、前面は柵で仕切つてある。又懲戒室が三ッ四ッあつて、惡い者は之に閉込め、外から錠を下す、戶は格子形になつて居る、寢室には番人の寢る所もある、運動場は男女大きな子、小い子により、別々にある。



獨逸ライプチヒ市の一託兒所

此救兒院には生れた其日の赤兒より廿一歲迄の者を收容する、子供は此所で受取り地方の救兒院に分けて送り付けるから、子供の出入常ならず、二三日で出る者もあり二三週間で出る者もある。

ロシヤの首府ペテルブルグで見たのは嬰兒の養育院である。（明治三十五年五月二十三日參觀）、此所には八百五十人ばかりの赤兒を收容し、中には月足らずの兒もある、まだこれより多數の時もあるといふ。乳母は夏になると他に儲けがあるから不足勝で今も不足である、モスコーなど工場の多い所では、乳母の不足が一層甚しいといふ。赤兒の百分の十五六は棄兒であつて、後は私生兒とか又は貧乏で父母が養ふことの出來ない者を持て來るのである。中には母を子に附けて其儘入院さすこともあるが、母は多くは之を嫌ふといふ。病室なども能く備はり、傳染病室は別になつて居る、又種痘用の犢が畜ふてある、パンは內で拵へる。ソップにも品々ある、肉もあつて食物は良い。收容せる子供の中には、私生兒も少くなく、身分ある者の落胤なども名を隱して斯んな所に容れらるることもあるとかでそんなのは自ら入院費も高いといふ、ロシヤには斯る養育院が方々にある。ペテルブルグの養育院には赤兒を數ヶ月置いて、それから地方の養育院へ送り、地方で育てるのである。院內には養育室が幾つもあつて、そこを通ると十數人の乳母が赤兒を抱いて列を作つたやうに立つて丁寧に挨拶する、皆白い着物に赤い帽子をつけて居る。其外子供受取所、診察所、外科手術所等がある。又月足らずの兒を養ふ所では子供を衣服に包んで、寒暖計を挿して居る。斯る養育院が近傍に又新たに出來るといふことであつたから、今はもはや出來たであらう。此近所に子守の學校もある由たが見なかつた。參觀中副院長と、女頭のメダルを胸に多くつけたのが附添ひて案內された。

斯る託兒所、救兒院などは、文明の社會には必要なものであるが、日本にはまだ備はつて居ない。東京の築地本願寺の一隅に託兒所が出來て居るさうなが、それは出征軍人の幼兒を託するためのもので廣く勞働者貧民等の爲めの常設のものではない、望むのはこの常設のもので、且方々に多く出來ねばならぬ。勞働する女が、脊に子を締め括つて、車の後押をしたり、物を運んだりして居るのを見ると、つく〴〵氣の毒になる。眞の文明は表面の修飾のみならず、裏面の整頓改良がなくてはならぬ。而して斯る事業は、婦人の率先盡力すべき事であると思ふ。

婦人と社會事業

監獄事務官　小河滋次郎

▲歐米婦人問題　歐米各國に於ける女權擴張運動、及び婦人問題に關する議論は近年益々盛んにして、種々の方面に向つて發展しつゝあるのであるが、大要これを政治的、敎育的、職業的、及び社會的の四方面に區別することが出來る。

▲社會的の活動　婦人の種々の活動のうち、私の見る處では社會的方面の活動が比較的最も著しく成功を告げて居ると思ふ。何故かと云へば元來女子は社會的敎育者たる天職を有つて居るものである一家の財政を司ることは古來より女子の本能として、東西各國を通じての事實である。即ち婦人は一家の政治を料理するの天職を有して居るものである。果して然らば町村は一家の大なるもので、社會は町村の集りであるから、社會的事業の發達を完うする上に就ては、婦人の性能并に天職が其發達を助長せしむるに、又大なる力を持つて居るのである。

▲慈善の根本義　慈善事業にも種々の種類があるが、要するに廣き意味に於ける貧民を救濟するに外ならんのである。社會に於ける貧困窮迫の原因を調べて見ると、間接と直接とに論なく、結局は家庭關係の不調和と云ふことに歸するので、其の關係を詳かにしてこれに向つて適當の整理調和の途を講じ、救濟保護の方法を見出すと云ふことが社會事業の主なる働きであつて、此働きに對する觀察力、及び思考力は殆ど婦人の特有と云つて宜しい、此點は婦人の力が男性に優つて居る。さうして此等の活動力となるべき源は慈善であつて、慈善の權化たる婦人の手に依て始めて社會事業の上に活力を見出すことが出來るのである。

▲最新模範事業　歐米各國に於ける最新事業の模範として賞揚せらるゝ獨逸のエルベルフエルド、システームの成功を見るに至つた主なる原因は、婦人を各部面の必要機關に用ゐたからである。此經驗から各國とも近來の傾向は、公共的最新事業の上にも追々公の機關として婦人を採用することになり、獨逸では孤兒委員貧民委員は勿論、公權裁判の職務にさへ參加せしめ、米國では婦人の警察官も設けられ、女性の犯罪者に關する職務を執らしむると云ふことである。

▲良妻賢母と社會事業　婦人が社會事業に盡すは其天職と、其本能を完ふする次第であるが、社會は爲に其惠に浴することが至大である。翻つて女性も爲に其品性を高むるのみならず、併せて將來其身を處する上に非常なる利益を得ることである。即ち利他の一面には自利これに伴ふ、看護婦及び兒童敎育の任を盡せば、自己の兒童を敎育する助となるは勿論又直接救貧事業に當る時は、下層貧民の狀態をも詳にし、從つて自省心、同情心が出て來て圓滿なる家庭を營むことが出來る。世間動すると、婦人をして社會事業の如き家庭以外の職務に當らしむる結果は內政を忽にし、婦女の本分を空くすと云ふ者があるが、これは杞憂に過ぎぬ。將來良妻賢母としての準備の爲にも、社會事業などに關與せしむることが必要であつて、既に米國及び英國に於ての事業の成績は之を證明して居る處である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供倶樂部

檻の獅子

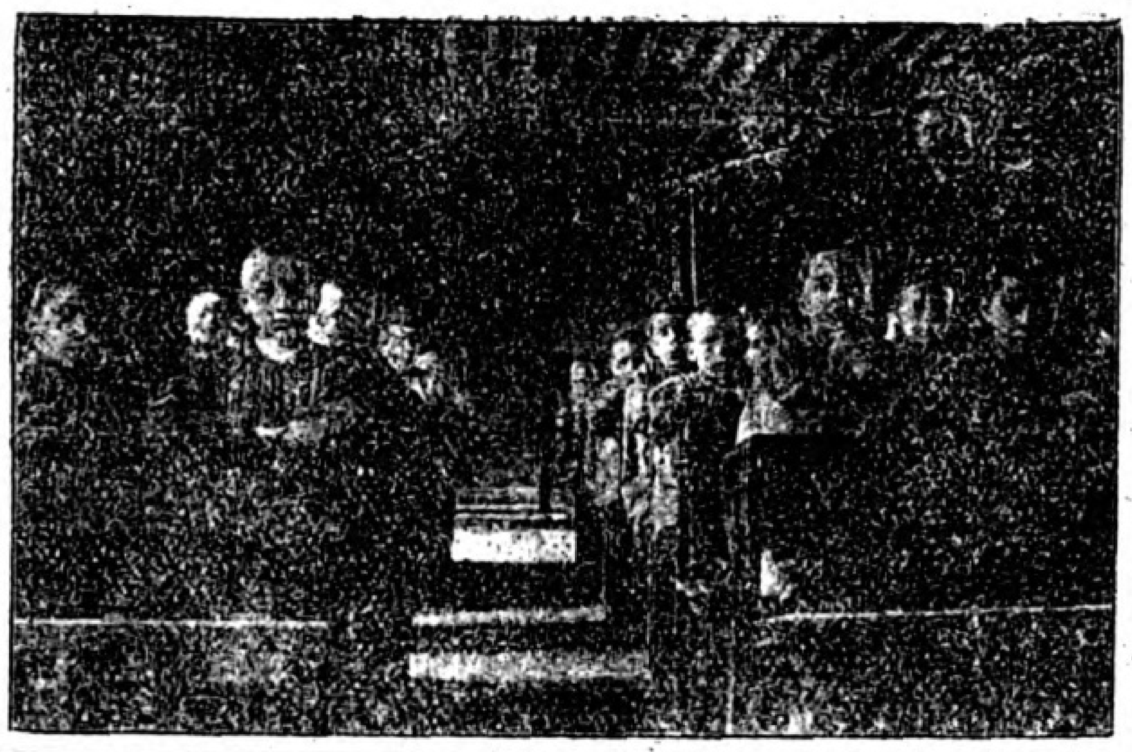
三島霜川

ま、ある動物園と致して置きませう。其處に一匹の獅子がゐました。また玆に、名前は、たゞ太郎さんと申し上げて置きますが、大變に動物好の少年がありました。動物とさへ名が付けば、犬でも猫でも、それは好も好も大好。

それで太郎さんは、よく動物園へ行ッて見ました、わけても獅子が大好ですから何時も檻の外に立ッて獅子と睨ッくらをして居りました。

ある時のこと、獅子は何と思ッたのか、あの長い鬣をふりながら、いま〳〵しさうに、

「いやはや、けちな少年だ。何時も俺のところへ来て、珍らしさうに見てゐるが、うるさいことだ。こんな檻の中へ入ッてゐないと、飛蒐ッて、パクリ一と頬張にして遣るんだがな。」



巴里救兒院内の敎場

子供の保護と其救護事業參照

此う謂ッてゐるのが、不思議にも太郎さんの耳に能く聞えました。

「おや〳〵、獅子め、何んか謂ッてゐるぜ。私のことをけちな少年だッて、生意氣なことをいふな。」と思ッて「おい、獅子さん、何んだッて。」

獅子は、燃えるやうな輝く眼で、ぢろり太郎さんを睨みつけて、

「この、少ッぽけな豆藏め、何を謂ッてゐやうと俺の勝手だ。」とノッソリ立起ッて

「おい、こら、子供。うるさいから彼方へ行け、行かないと喰ッて了うぞ。」

「おい〳〵、獅子や獅子さんや、お前は私を喰へるかえ。檻にゐるやうな意久地無し、喰はれるものなら喰べて見ろ。」とからかひながら、「僕は、これでも強いんだ、僕の先祖の爺さんは、あの朝鮮で大虎を、退治したのを知らないか。」

「はゝゝ。」と獅子は笑出して「それは張子の虎だらう。」

太郎さんは、むきになッて、

「馬鹿謂ッてら、眞ンとの虎だえ。」

「眞ンとの虎だ……尤も虎なんて奴はカラ意久地が無から然うかも知れない。鎗で突殺される位だ……だから俺が吠えると、三里も離れてゐやがッて體が竦むて了うんだ。」

「さうすると、君は虎より強いのか。」

「強いとも！お話になッたものぢや無い。たッた一と繋だよ。だからお前なんか、俺の尻尾て、ちよいと撃ると紛微塵だ……牛の頭でさへ粉々になッて了うからな。」

「や、驚いたな、君は、そんなに強いのか。併し象には敵はないだらう。」

「象の老爺か、那の老爺、體が大ッかいら、始末が惡い。それに、あの鼻が邪魔になッてならないが、何有、敵はないことはない。他の奴のやうに一撃とは行かぬが、ツマリ駄目さ。」

「豹は、何うだね。」

「あんなものは、たゞの一擊さ。」

「狼は？……」

「狼なんて奴は、睨めば其きりだ。」

「犀なんか何うだね。」

「吹けば飛んで了ふ。」

「それでは人間は……」

「人間なんか、尻尾て澤山だ。」

巴里救兒院の幼兒

子供の保護と其救護事業參照

「強いな。」と太郎さんは舌を捲いて「そんなに強い君が、何うして人間なんかに捕ッたのだえ。」

「俺が捕ッたのでは無い。」

「君で無くッて、誰が捕ッたのだえ。」

「俺の親父さ。」

「では、君の親父は弱かッたのかえ。」

「弱いどころか、俺より強かッたのだけれども、人間といふ奴は、智慧があッて、電氣仕掛で捕へるのだから耐らない。それて俺の親父も生捕られて了ッたのだが……」と獅子は、少し悄れ氣味になッて

「何うも口惜しくッて腹が立ッて仕樣が無い。毎日澤山の人間が見物に來るけれども、それが喰べられないんだからな。此の動物園にも隨分獸がゐるけれども、それも喰べられないし、體が弱ッて了うばかりさ。」

太郎さんは、其のゑらさうなのに、感服して聞いてゐたが、

「併し鐵砲彈は何うだね。」

「鐵砲彈か。ま、一ッ位は平氣だ、急所へ二ッも擊れたら敵はないがな。」

「では何うだね、獅子さん、一番檻を出て暴れて見ると面白いな。」

「それは大きに面白い、結構な話さ。命の洗濯が出來るけれども、俺が暴れ出しては市中が大騷になるし、それに何んだ、此の檻ではちよッと叩破すことが出來ないからね。」

太郎さんは、妄と面白がッて、

「ぢや僕、檻を開けて遣るから出玉へな。僕も加勢するから、兩人してうんと市中を暴れ廻らうぢやないか。」

「そりや有難いな！　さうすると俺は大變に面白いけれども、お前が危險だ！……少し氣の毒なことになる。」

「何故、え、何うして？」と太郎さんは、不思議さうに訊ねた。

「何故ッて、氣の毒ながら、俺がお前を喰ッて了うよ、手近だから眞ッ先に喰ッて了うからね……俺の尾尻が、お前の胴ッ腹へ飛んだら、お前の體は、二ッに折れて了うからな！」

「おや〳〵、それぢやつまらないや。」と太郎さんは、頭を搔いて大しくじり！

昔のあそび

▲竹の子

まア、玆に七人の子供が集ッたとしてごらんなさい。そして此のあそびをするのです。すると、その中の二人が、賣人と買人とになるのです他の五人の子供は、筍になッた積で、一列になッてしやがむでお在てなさい。

そこで買人になッた子供が、ほンの少しの間、傍へ行ッてゐて、賣人になッた子供の傍へ來て「筍おくれ。」といふのです。すると、賣人になッた子供は、筍になッてゐる子供に向ッて、

「今、芽は何の位。」と訊ねる。筍になッてゐる子供は、皆一所に、小指を出して見せて、

「今、芽は此の位。」といふ。此うして、賣人になッた子供は、五度まで、「今、芽は何の位。」と訊ねて、筍になッた方の子供は、五度目に拇指を出して示せて、今、芽は此の位。」といふ。そこで賣人は、買人に向ッて「何の筍が可うございます。」と訊ねると、買人は、其の連れて行かうと思ふ筍になッてゐる子供を指さして、之をおくんなさい。」と謂ッて、其の子供を他に連れて行ッて、また買に來て、前の通にしてだん〳〵と五人の筍になつてゐる子供を連れて行くのでございます。

▲錢山金山

先づ一人の鬼を定めて置て、その鬼に手拭または前掛で眼を隱します。そこで兩人の子供が左と右から、鬼の兩手を取ッて、二度か三度グルリと廻らせ、「錢山か金山か。」と訊ねます。それから他の場所へ連れて行き、「此處が錢山ですよ。」とかまたは、「此處が金山ですよ。」とか謂捨てゝ馳出し、他の子供等と一所に思ひ〳〵に勝手なところへ隱れて遊ぶのです。ツマリ隱れん坊の一種。

巴里一託兒所の内部

子供の保護と其救護事業參照

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紅珠白玉

獻上の花扇

理事 前公爵夫人　近衛貞子

近衛家に於ては三百年前より引續き慣例として宮中へ獻上せるものがあります、夫れは七月七日七夕の節句に秋の七草を扇の形に作つて獻上するのでありますが、維新以來此慣習も一時打絶へて居りましたが、一昨年來再興して此慣例を續けることゝ致しまして、今年も獻上致しました、昔しはこれを獻ずるに一の儀式がありまして、近衛家の揃所詰（則ち要所詰）のものが被衣をして封箱を持ち花には花傘を差し掛けて御所まで送るので頗る詩的趣味のものでありました、其の封箱の中は近衛家の侍女いまと申すもの丶手紙で、宛名は長橋の局の許へとしてあります、すると長橋の局からはまた之れに對して左の如き返事がありますが、今の人には讀み惡い程の美事なる筆蹟で認めてあります、京都では近衛家は御所の眞ン前に邸宅がありました爲め、花も活き〳〵として居りましたが、東京では宮城と大分隔つて居りますので、花が萎みはせぬかと氣遣ふて居ります、また昔の如き古風の儀式も今日では調ひませぬから、釣臺に乘せて宮城内まで運ばすことゝ致して居ります、昔は舊曆の七月七日でありますから、秋の七草も悉く揃ひましたが、新曆の七日で花を揃へることは多少困難でありますが、併し幸ひに今年は皆な善く調ひまして、舊慣を奉ずることを得ましたのは、一家の幸福とする次第であります。

いよ〳〵御きげんよく文のやう披露申入り〳〵へばいつものごとく此はなめでたく覺しめし幾久しく千世萬代までも祝の（このところ詳かならず）申上候めでたく〳〵かしこ

ながはしより

おいまのおつぼね様　まゐる

▲附言　附録近衛家より献上の古代花扇寫眞版と照對せられたし

近衛家より本年献上の花扇

短文

題「十分間」（十分間に見聞の寫生文）

▲玄關　京都　花輪介志野

門外に轍の音止りて訪へる人あり、誰やらんと出見れば一面の識なき婦人、出されし名刺を見て來意を問へば、此度岡山孤兒院に收容したる、東北饑饉地の孤兒、榮養不良の爲め衰弱したる或は病氣を得特に人手を要する者等多くして、とみに經費の不足を生じたれば、此際慈善音樂會を開催し、其得る處をあげて同院に贈らむとす、君また贊成者の内に加名せよとの熱心なる勸誘なり、見ればやさしき左手の指にきらめく十字章、神の子として、聖き御旨を受け、社會に貢献する人の意志、無宗教家の及ぶ處にあらずと、僅か十分の應接の間に我は深く感じぬ、あゝ神よ此み子を守れ。

▲選者曰　品位頗あり

▲往來　大阪　富永才子

朝風になびいて居る橋詰の柳を見るともなしに眺めて居ると、向ふから勢よく駈けてくる二臺の車がある、車上の人は何れも婦人であるが、小やかならぬ行李など抱へて居るのを見ると、多分川口上りの旅客であらう、最早大方の商家は起き出てゞ軒先の掃除、店頭の飾りに餘念ないのである、忙はしげに往來するのは、新聞、牛乳などの配達夫て、手拭さげて朝風呂へ行く人もあれば、魚籠かついで市場へ急ぐ商人もある、まだ學生達の姿は見えないが、川筋には壯んに巡航船が運轉をして居る、これが我が大阪市一日活舞臺の序幕―但し其一部―時に計りて十分間の光景なのて。

▲選者曰　小説家の筆

▲停車場　京都　清水いま子

俄に思立ちし事とて、旅の用意もそこそこ氣もそゞろ、停車場に車かけつけ切符買ひ、プラットホームへ出づる後より、我が名を呼ぶ人あり、顧れば日頃親しき友なり、餘りの嬉しさに發車の迫りをも打ち忘れ、妾事暫し田舍なる叔母の家に都の夏を避けんとの旅立、前は蒼々たる琵琶湖にて、後は續く比良の連山、敢て美景と云ふ程にはあらねども、御閑あらば是非にと友の心を促す折しも、乘車を告ぐる驛夫の聲に、惜しき袂を分ちてあたふたと。

▲選者曰　列車に飛込めば十分間とは思附きなり

▲佛間　山形　阿部佐井子

此頃からやう〳〵歩き初めた姪が、可愛い足に、草履の赤い紐を結ひつけて、下女に連れられて遣つて來た、何時もの樣に、私は直ぐと抱き上げて撫てゝやると、間もなくおりて袂をひくから、跟いて行つて見ると、茶の間の大鏡を一寸覗いて佛間に入つた、そして、紅葉のやうな手を合せて、頻りに頭を下げるのであつた、あゝ何んといふ可愛い子てしやう、今日は汝が祖父の命日てあるのだ、私は是れを見て胸が一ぱい、また抱き上げて感謝の涙を、可愛い〳〵其の頰にそゝいだ、亡き父君は草葉の蔭て、どんなに嬉しくお受けなされたろう。

▲選者　大鏡を一寸覗いて佛間に入つたに力あり

▲隣家　京都　渡邊豊子

或日友がり訪ひたるに、隣よりゆかしき箏の音の洩れ聞ゆ、友は申さく、今奏でゐる人こそ日頃噂したる幸福者なれと、あな羨しなど打ち語ふ折しも、ふと怪しき臭ひすなり、されど奏間の事なれば、さまで心にも留めでなほ語り合ふ程、とみに箏ハ音ハ途絶えて聞ゆるは何やらん、周章ふためく音、門は俄に騒がしうなるよと思ふ間もあらばこそ、數多の人々案内も請はで慌だしう我等が居る室にも亂れ入り、手近きものより運び出す、すはや火事よと取るものも取りあへず雖せ出て見れば、こはいかに、隣の軒はや紅の焔を以て包まれたり、あゝ夢なる哉人の運命。

▲選者　事實とはちと受取れ難し

大澤ゆ子

▲野外　東京　四屋やす子

半日の興をつくして、堀切なるむさし園を立いでたる我一行、手に持てるはまだ莟なる家つとの菖蒲、懷中にこむるは今日の遊びにもれし友思ひの紫の花、先きだち行く友の打笑みて振返るは、又おもしろき言の葉やつみたりけん、おくれし友のあと追ひ來るは、まだ物語り草のつきぬとてや、綾瀬川に布そゝぎ居たりしなのこは、紫の波を殘して立去りぬ、早苗とり居しをとめもいつしか歸りて、田には蛙の聲のみしげし、舘が淵まて暮ぬうちにと急ぐ、時鳥もなきぬべく、くれなば螢も飛びぬべき綾瀬の堤、まだ名殘の惜しまるゝよ。

▲選者曰　十分間以上の心地せらる

▲金剛簿（四之卷）　十ページに掲げ置き候間御覽下さるべく候かしこ

小川のさゝやき

埼玉　森田竹子

いかに幸ある我身かも
　蜆あさりに小蟹とりに
目高すくひに石ひろひ
　愛しき里のうなゐらが
絶ず訪ふこそ嬉しけれ
　色飽までもくろ〳〵と
日にさらしたる太股に
　我が水獄つて泳ぐとき
世の浮塵もあらはれて
　すが〳〵しきよ我が心
實に愛憐のうなゐよと
　夏の小川はたのしげに
囁きつゝもながれ行く
　にごらぬ水に光りあり

忍草

蚊遣の料といとけなき
　孫がひろひし梨のはな
四筋五すじくゆらしつ
　老人はかたらふ爺と婆
長押の鎗を打ち見やり
　榮えし春のしたはしく
いとゞむかしを忍ぶ草
　軒端に繁く生ひにけり
更くるに安き夏の夜の
　傾ぶく月にほとゝぎす
一聲たかく啼きて過ぐ
　おもひて多き今宵かな

▲選者曰　二篇共に佳ならざれど捨難き節あり

わがこゝろ

名古屋　名取照子

君をあしとは言いはじ　罵しる君のあればこそ
たゆまて吾は勵むなれ　假あらぬ名は負ぬとも
そは知しめす神あらん　辛き誹りもそらほめの
聲よりわれは嬉しきに　見よかの川を流れ行く
水澄しまの世ならずば　いつかは君の顧り見む
あふぐみそらの夕榮や　地に自然のはなかゝる

▲選者曰　難少き作と云ふべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

納涼

大口鯛二氏選　作歌披露

天
蝉の聲耳にのこれと我庭の松の夕かけ涼しかりけり　山形 阿部さゐ子
▲評 苔深く松茂りたらん庭の夕風いかに涼しからんとゆかし

地
河風に吹き送られてかへるさの袖寒きまですゝみふかしぬ　岡山 武田須磨子
▲評 行水のさら〳〵としらべおろされたる大方ならずよろし、打吟ずればその河風も我袖に通ふ心地せられてなん

人
もくつ焼く煙の末に月みえて波路ふきくる風のすゝしさ　埼玉 水野淑子
▲評 作者はいづこを思ひ寄せられたるか知られど都近くては七里が濱あたりに此景ありいとよろし

佳調

東京 小島幹子
月みつゝそゝろありきの涼しさに友の門をもたゝきつるかな

○愛知 市橋幾子
螢とふ堤つたひの涼しさにかへさ忘れて夜を更しけり

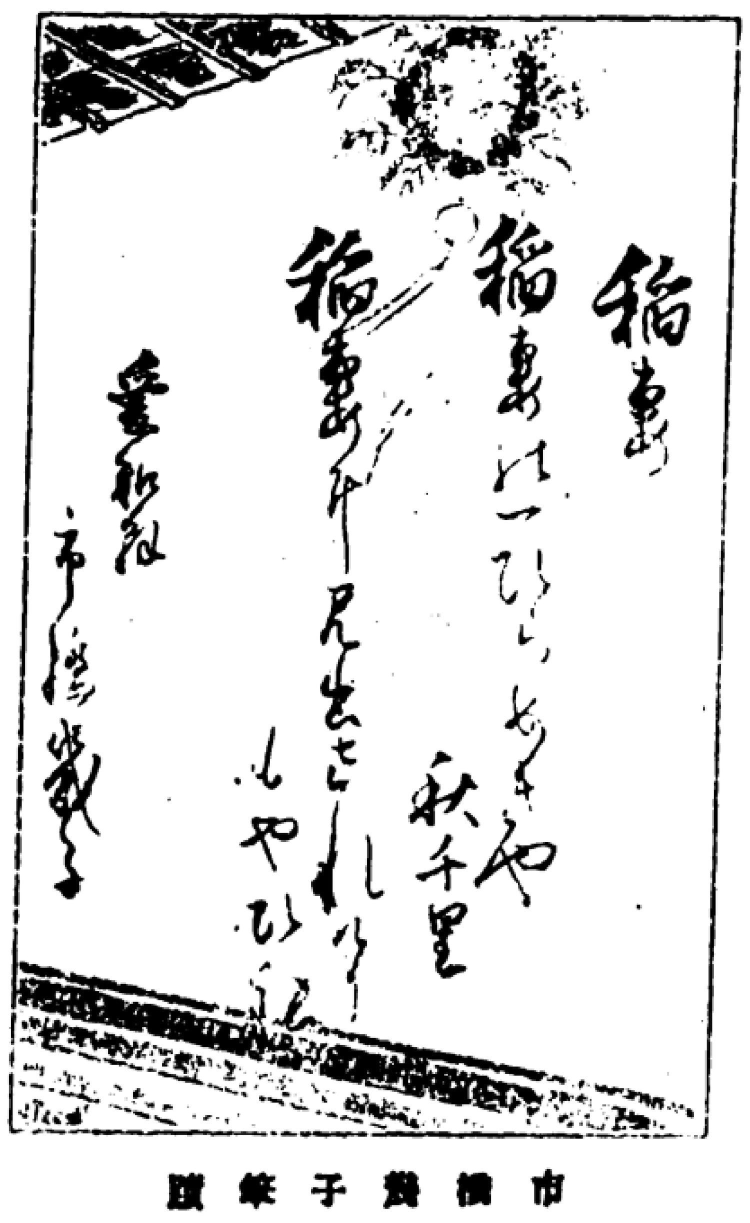
○三重 諸戸常子
ゆあみして涼む軒端の燈火の影ゆらくなり此夕風に

○埼玉 森田竹子
月かけのかたむくまても涼みけり吹くる風の捨てかたくして

○岡山 仲田磯子
はしゐして友とかたらふ池殿の夕かせ涼しはちすかをりて

甲
すゝみつゝ端居なからのうたゝ寝に夜やふけぬらん月傾きぬ　東京 赤澤英子
○夏としもおもはさりけり大川に船をうかへてすゝみする夜は　大阪 富永才子
○立ちよりて暁のうつるも忘れけりなつをよそなる森の下蔭　京都 渡邊登子
○蝉の羽のうすき袂をふきとほしはたへすゝしき夏の夕風　若松 永山喜代子
○おもふとちかすみか浦に舟うけて遊ふ夜ころは夏なかりけり　茨城 磯田喜代子
○うすものゝ袖しめるまて月見つゝすゝみなかしつ橋のたもとに　東京 長岡錠子
○河波にうつる月かけすゝしさにしはしといひて夜をふかしけり　群馬 伏島たき子
○朝またき庭のかよひ路しめりつゝおきなくまたぬ露の涼しさ　岡山 貝原喜惠子
○清見かた清きなきさを漕きめくりすゝしき富士の夢やなかめむ　静岡 清水初子

乙
夕立の過きし畔道うなゐらの田植歌さへ涼しかりけり　宮城 金たま子
○風清き松のこの間にさしのほるつきの光にあつさ忘るゝ　京都 花輪余志野
○小流れに橋打渡し夕涼み月をやきてる茶をすゝりつゝ　東京 西川ゆたか
○夕立の名残をとめし庭草のつゆに照りそふ夏の夜の月　東京 後藤絃子
○岩田川月かけ清きこの夕へ小舟うかへて暑さわするゝ　三重 小島駒子
○橋の上を渡るたもとに風うけて涼しく加茂の流れ見るかな　京都 渡邊とき子
○月うつる野川の流つたひつゝそゝろあるきの袖そすゝしき　長野 高橋きよ子
○夏なから身にしみ〳〵とすゝしきは軒の松風みしか夜の月　静岡 青木絹子
○すゝしくもしける木陰のつり床に夏を忘れてひる寝してけり　函館 神尾登女子
○月かけも水もすみ田の川面に小舟浮ふる宵の涼しさ　函館 佐藤益子
○思ふとち清き流れに舟うけて涼む夕は夏としもなし　青森 田島正子
○月かけもすみたの川に棹さしてあつさを流す船のすゝしさ　青森 鈴木安子
○生ひしける若か園生に招かれていとゝたのしく涼みけるかな　長野 植原千代子
○夕くれの木の間の風のすゝしきはひるをいつこに吹きて行くらん　静岡 萩原さだ子
○浅瀬こぐ小舟の棹もみしか夜のふけて涼しきよとの川つら　京都 若山たき江
○夏としも覺えさりけり衣手のもりくる風のいと涼しさに　京都 難波夏久子
○舟うけて水草つむ子も見ゆるころ涼みに來ませ笠の湖　福島 織川かれ子
○あつさをはたゝ津河瀬に流しやりて夏のほかなるわかこゝろかな　山口 末田良節子
○我わらふまゝに一日の業をへてすゝむ夕そ樂しかりける　東京 山口理勢子
○風かよふ夕の杜の下すゝみまたるゝ秋も忘られにけり　仙臺 渡邊作子
○たか家も涼みなからにすさふらんことのつまおとふえたけの聲　群馬 木暮千代子
○きてみれは夏の外なる心地して立ちさりかたき加茂の川橋　京都 磯谷澪子
○鴨川の清き流に立よれは心もすゝし夏の夕くれ　京都 前川琴子
○風通ふ軒の小鈴の音きゝて月まつほとそ涼しかりける　岡山 森島古野
○小夜ふけてかへる堤の河風をけふの涼みのつとにともかな　名古屋 青木操子
○松蔭の清水の元におりゐれは涼しさそふるひくらしの聲　神戸 宇野類子
○雨はれてみとりしたゝる木の間より夏をよそなる風かよひつゝ　静岡 丹澤啓子
○日さかりは硯の海も水かれぬゆきてすゝまん瀧のほとりに　北海道 西久子
○夕風に袂ふかせてすゝみをれはきしの柳に月のかゝれる　神戸 乾榮子
○かけやとす月にさゝやく谷川のさゝれの音そ清く涼しき　函館 龍岡とし子
○影うつる月を碎きてよる波におはしまし涼しかはつらの宿　廣島 富樫つる子



市橋幾子筆蹟

○なる神の音をさまりて木の間よりもれ出る月のかけさやかなり　福島 伊藤静子
○梅雨は今日しも晴れて思ふとち月に語りてすゝむ嬉しさ　東京 黒川順子
○つれ〳〵に海はた近く立ち出れは夏を忘るゝ沙風のふく　神戸 大谷百枝子
○水の音そよ吹く風も身にしみて涼しさあまる舟の内かな　東京 鳥飼みと子
○月滿てたもと涼しき川風にひるの暑さも打わすれけり　京都 清水いま子

○夕風にうなゐのすてしさゝ舟の庭の池水はしるすゝしさ　愛知 山内經子
○玉すたれかゝけて涼む夕風に飛ひ交ふ螢見るそ涼しき　青森 吉田やす子
○もろ月のかけをすゝしみ夏衣たゝまくをしき松の木のもと　静岡 小池きく子
○浴衣きて夏山近くわかくれはとほく聞ゆる箏の音すゝし　神戸 鹿島節子
○ほゝゑみてゆきつもとりつ稲の上にすゝむ袂に夕風そ吹く　兵庫 下岡松枝子
○かくはしき香りくゆりて楠木の蚊やりなからに納涼してけり　東京 伊矢野孝子
○隅田川すめる月をはなかめつゝ清きなかれにすゝむやかたふね　東京 長井うた子
○文をよむ窓よりみゆる向山いつもすゝしきみとりなりけり　東京 長井いれ子
○岩たゝく瀧の流に月かけのやとる夕そ涼しかりける　岡山 西村はる子
○すゝみすと小庭巻き居れは風立て打かへる袖に月そほのめく　兵庫 中村益子
○いへつとにつゝみてかへるよしもかなたもとすゝしき加茂の川風　山口 末田竹子
○涼しさをこめて吹きくる夕風にたへぬ暑さを忘れつるかな　石川 新田暉子
○鮎子とふ川瀬の波のよる〳〵に釣する身こそ涼しかりけれ　東京 瓜生保子
○あて人か玉のうてなのそれよりもましてすゝしき夕顔の下　青森 佐藤楓子
○涼しさに森の木陰に立よれは夏もゆめみる心地こそすれ　山梨 芦澤露子
○思ふとち舟を浮へてへたてなく語りあひぬる夕へ涼しも　岡山 內藤斐子
○水とりの加茂の川原のゆふ月にあつさわするゝ袖の下風　京都 金澤牧子
○いさ人に告けて涼まんときはなる松の木かけは夏なかりけり　山口 荒瀨千勢子
○はし居してかたるも嬉しまき水の露ふく風に袂ふかせて　東京 鈴木菊子
○すみわたる月なかめつゝやからみなともにかたりてすゝむ樂しさ　埼玉 加藤美代子
○すゝしさを秋にうけて野路ゆけは小川に添ひて笛の音きこゆ　東京 須田直子
○賤か家の夕顔たなの下すゝみ高殿よりもすゝしかりけり　愛知 名取照子
○ふく風の清き川への夕すゝみひるの暑さもわすれける哉　岡山 谷とめ子
○打つれていさ涼みせんしろかねの波うちよする月清見潟　東京 中根富士子
○ひゝ〳〵の扇つかひをよそにして吹きくる風にあつさわするゝ　東京 三宅久子
○立ちよりてしはしあつさも忘れけりまし水わけゐる松の下かけ　愛知 平松いと子

丙
月うけて涼風うけて高殿に母のみ眠をさまする嬉しさ　東京 栗田富子
○すゝしとも見えぬなりけりゆかもせにのみつうたひつさわく人々　京都 渡邊米子
○晋と酔へこの蜩に海原の風うけて君と涼むによろしおはしま　秋田 西村智賀子
○月影にせゝらく川のおはしまも一入涼し駒下駄の音　青森 中澤なほ子
○吹く風の音に暑さもきえさりて涼しさ覺ゆ松の下かけ　長崎 葛原梅香
○たへかたきひるのあつさも夕されは涼くなりぬおはしまの下　函館 安藤喜美子

▲注意▼ 募集課題は十一ページにあり

俳句披露　稲妻

天 稲妻の一ひらめきや秋千里　愛知 市橋幾子
地 稲妻に泣き立つ橋の捨子哉　岡山 赤木翠善子
人 稲妻や暗にあり〳〵東山　京都 八田艶子

稲妻や千尋の海の底までも　東京 大澤孝子
稲妻やふり向けはなる神の鈴　京都 若山たき江
稲妻や光に落ちる草の虫　東京 木村駒子
稲妻や左舷右舷の孤塁し　廣島 白井玖子
稲妻や列車過き行く小松原　東京 川村識子
稲妻に見付けし敵の陣所哉　三重 莊司信子
稲妻に一字讀めけり寺の額　東京 赤澤英子
稲妻や粟津か原の木の間より　京都 磯谷澪子
稲妻や絹を引裂く峯の上　熊本 齋藤さき子
稲妻やふたゝひ見たし妹か家　名古屋 名取照子
稲妻や人影はッと窓の内　兵庫 大谷百枝子
稲妻や青田縦横十文字　埼玉 森田竹子
稲妻や西に東に南北　山形 阿部佐井子
稲妻や海上千里陸百里　三重 山内勢以子
稲妻や鎮守の森のかなたより　東京 野中雄子
稲妻に物の怪見へし夜半哉　秋田 西村智賀子
稲妻や一と目にあまる古戰場　和歌山 南部穂子
稲妻の光りに急く小徑かな　青森 田島正子
稲妻やかやつる人の顔の色　東京 濱田直子
稲妻やふと見合せし顔と顔　岡山 仲田いそ子
稲妻に光り取られし三日の月　東京 松藤響子
稲妻や眠た子に布團着せ掛けぬ　兵庫 下岡松枝
稲妻を背負ふて歸る早き哉　東京 三宅ひさ子
稲妻や琴聞く耳を目に取らる　岡山 內藤あや子
稲光り宵やみすごき青田哉　群馬 伏島たき子
稲妻に追はれて早き夜道哉　廣島 小田八重子
稲妻の影すさましき一夜哉　兵庫 宇野類子
稲妻や盗人も手を暫時止め　静岡 萩原さだ子
稲妻に一際ますや稲の出來　鹿児島 小山信子
澤田にも花咲く宵や稲光り　青森 吉田安子
稲妻や今年も九分のみのりなり　東京 黒川順子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第一回シンガーミシン裁縫夏季講習會廣告

本院はミシン専門の女學校で明治三十七年七月の創立でありますが、爾來生徒の數が次第に増加しまして是迄の教室にては狹隘を告ぐる樣になりましたから、麹町區有樂町一丁目五番地に地をトして校舍新築に着手しました、本月末移轉する事となりましたから此夏季を利用して此有益なる技術をおつたへするため、爰に第一回の講習會を開く事といたしました。

篤志の方々は定員に滿たぬうち至急申込の手續をなさいませ。

明治三十九年七月　東京市麹町區有樂町三丁目一番地　シンガーミシン裁縫女學院

一、講習細目（實物教授）

要項	日數	材料用布	見積價格
ミシン使用法、附屬器使用法、穴かゞり、マツリ縫	二日	天笠木綿大巾三尺	金十八錢
普通シャツ裁方及縫方（以下之に準ず）	二日	白チヾミ大巾（二尺）五尺五寸	金四十四錢
飾シャツ（部分縫）	一日	白チヾミ半巾一尺三寸	金五錢二厘
運動シャツ、肩明シャツ（部分縫方説明）	三日	白キヤリコ大巾（二尺四寸巾）二尺四寸、毛ベリ一丈五尺	金二十四錢、金五錢
腰付ヅボン下、袴上股引仕立ヅボン下	三日	白チヾミ大巾五尺五寸、白チヾミ大巾五尺四寸	金四十四錢、金四十三錢二厘
ホワイトシャーツ、ニグリジーシャーツ（部分縫方説明）	四日	白キヤリコ大巾六尺四寸五分	金六十四錢五厘
カラー、カフス	一日（形チ與フ）	白キヤリコ大巾二尺	金二十錢
ネックタイ	二日（形チ與フ）	サラサ大巾三尺五寸	金三十五錢
小兒涎掛各種、小兒前掛二種	二日	白キヤリコ大巾二尺五寸ヅヽ	金五十錢
女兒簡單服二種（下著説明）	二日	白メレンス大巾三尺五寸、サラサ大巾一尺、レース二ヤード	金六十三錢、金十錢、金十錢
男兒シャートウエース帽子及水兵服ノ製圖裁縫	七日	白チヾミ大巾六尺、毛ベリ一丈五尺	金四十八錢、金五錢
	二十七日		金四圓八十八錢九厘

注意　本會ノ講師ハ教授上縫經驗ヲ有スルヲ以テ右ニ掲ゲタル細目ハ皆實物ニヨリ悉ク規定ノ期間ニ必ズ修得セシムベシ世間普通ノ廣告ト同視スベカラズ

一、講習時間　講習生ヲいろノ二組ニ分チい組ハ午前七時ヨリ十一時迄ろ組ハ午後一時ヨリ五時迄毎日四時間ヅヽ、但シ組ノ分チ方ハ申込ノ順ニヨル教授上何等ノ差ナシ

一、講習期　明治三十九年八月一日ヨリ三十一日迄二十七日間（日曜休）

一、講習生定員　い組六十人ろ組六十人

一、講習料　金貳圓五拾錢

申込期日迄ニ左ノ申込書ニ添ヘ差出シ本會會員之證及講習細目表ヲ受取ラルベシ

（半紙半枚）

申込書

住所族籍　姓名

右ハ貴院夏季講習相受ケ度此段申込候也

明治三十九年　月　日　右　姓名印

シンガーミシン裁縫女學院御中

一、會場　東京市麹町區有樂町一丁目五番地シンガーミシン裁縫女學院新築校舍（數寄屋橋内電報新聞ウシロ、三電車ノ便アリ）

一、申込期日　明治三十九年七月二十五日限り

一、證明書　講習修了ノ後ハ講習細目表ノ檢印ヲ調査シテ之ヲ授與ス

注意　會員ノ望ニヨリ本院既設ノ寄宿舍ニ入舍スルコトヲ許スコトアルベシ（寄宿費　金七圓）

講習會長　女子高等師範學校卒業生　シンガーミシン裁縫女學院長　秦利舞子

講師　同院主任教師　矢野はじめ子
助講師　同院助教　菅沼浦乃子
仝　仝　圓井はつ子
助講師　同院助教　足立要子
仝　仝　阿部里與子
仝　仝　加藤まき子

金蘭簿　四の卷

清國上海虹口三井洋行内　井手とし子
東京市淺草區馬道町七丁目五番地　六鄉公子
茨城縣東茨城郡竹原村　綿引節子
函館區天神町本山方　河原よね子
愛知縣豐橋町中八丁百十九番地　川口鐘子
神戸市上山本通リ諏訪山　鹿島節子
福島縣伊達郡保原町　太宰よし子
岡山縣都窪郡萬壽村字平田　武田須磨子
青森縣中津輕郡清水村　中田竹子
東京市芝區芝口二丁目　永山喜代子
京都市三條白川橋　難波良久子
三重縣北牟婁郡長島町　山内勢以子
静岡市宮崎町六番地　青木絹子
新潟縣魚沼郡鹽澤町大字日來田　青木美家子
熊本縣飽託郡出水村字今　齋藤さき子
埼玉縣浦和町百五十九番地　水野淑子
山口縣吉敷郡吉敷村　米田たけ子
東京市日本橋區室町二ノ四　早川翠子
兵庫縣朝來郡生野町　和田さゝと子
岡山縣都窪郡倉敷町　内藤妻子
福島縣河沼郡坂下町字南西樋　中村ます子
群馬縣群馬郡清里村　木暮千代子
静岡市梅屋町通寺町　里見雄子
東京市麹町區麹町一丁目三番地　黒川順子
愛知縣幡豆郡萩原村　木俣六女子
三重縣北牟婁郡長島町南本町一八九　莊司種子
京都市東洞院佛光寺下ル　清水今子
兵庫縣明石郡明石町ノ内相生町　清原千代子
岡山縣都窪郡萬壽村字平田　寺松政子
東京市小石川區小日向水道町九　大澤幸子

日本横濱市　金丸銃砲店

振替貯金口座四七二番加入　正價表及爲替拂込紙郵呈

幼少年御婦人等の家庭用空氣銃射的銃等を始めとし青年大人紳士諸君の旅行護身携帶用自働拳銃射的銃等何れも英米獨佛製最新式精巧完全なるもの各新式各種類に捗り漏れなく取揃へ置候

正價表は御一報次第郵呈仕候

振替貯金拂込用紙は何枚にても郵呈仕候全國何れの地に御住居の方にても横濱本店にて實價取同一の便法あり

洋細は御尋に對し敏速御答可申候

英學生　毎月二回發行　一部金三錢　見本進呈　神田區裏神保町十番地　東西社

暑中御進物用適當品各種

登録商標

定價表御申越次第進呈

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◉女子の判任官　各官廳に於て公職に從事せる女子は學校教員を除く外總て傭ひなる名義にて判任官の資格を與へられざりしが今回遞信省にては其管内に使用する女子雇員を相當の條件の下に判任官に採用する事に決定せりと云ふ今同省の意見として新聞の報ずる處によれば

△本省所管の各局所に於て現在使用する雇員の數は凡そ二萬三四千八ありて其の内女子の雇員は一千五百人に達すべし又現在女子雇員の從事しつゝある職務は概して謂へば調査に關する事務にして例へば鐵道作業局に於ける切符の調査積荷運賃の調査、遞信省及郵便局に於ける電報調査、郵便爲替の調査及貯金局の窓口に勤務するもの等なるが其最も煩劇錯雜なるは蓋し郵便爲替貯金管理所に於けるものなるべし彼等は現今に於て殆ど男子に讓らざる成蹟を擧げつゝありて女子の通有性たる緻密と服從とは男子と異り變化なき趣味なき事務に對しても嫌厭心を發生することなく從つて錯雜の狀態に在る或仕事を整理區分する能力の如きは却て男子を凌ぐに足るものあり又計算事務の如き、調査事務の如き、比較的簡單なる頭腦の働きと多大の熟練に依る指頭の作用とを要するものに至りては殆んど女子雇員否女子の此の方面に於ける獨占の職業範圍と謂ふも亦誇張の言にあらず

△今試みに郵便爲替貯金管理所に於ける女子雇員の狀況を見るに明治三十三年始めて女子を使用せしより以來其成蹟益々良好にして現今にては本省及支所を通じて無慮六百餘名の多數を採用するに至り其從事する事務の如きも甚だ複雜にして

イ、郵便貯金拂出並其檢査事務
ロ、郵便貯金受拂金の充算並決算に關する事務
ハ、郵便貯金の預入原簿の計算に關する事務
ニ、郵便貯金利子の計算並檢査に關する事務
ホ、保管證券の拂並計算に關する事務
ヘ、郵便爲替金及郵便取立金の受拂充算及決算に關する事務
ト、郵便爲替貯金諸式紙記號檢査に關する事務及遞送不能の爲替貯金拂戻證書に關する事務

等にして年度決算の時機にも殆んど男子に劣らざる成蹟を示したり

△右の如く女子技倆の卓絶なることが世間に認識せられし結果各種の銀行會社等に於ても競ふて之を採用し管理所其他所謂お役所向に於て支給する二倍乃至三倍の給料を出すに至り是に於て乎雇員一人の定率何程、定員何人と云ふが如き切詰勘定の官廳に於ては女子採用上鮮からざる影響を蒙りたる折柄日露戰爭始まりて郵便貯金の劇增、交通事務の增加するあり益々雇員の採用に窮し何とか適當の方法を講究せざるべからざるに至れり

△山縣遞信大臣は就任後直に所管局所を巡察して其執務の煩劇と時間の長きに驚かれたり、而て特に女子は男子と異りて全然榮進の途なきを以て何とか相當の方法を發見すべく調査を爲すべきことを命令され爾來研究百端の結果として遂に今回の如く女子雇員にして技倆資格共に充分に判任官たるに恥ざる者を選敍して之を登用するの途を開かれ女子は始めて男子同樣の待遇を得ることゝなり從つて退官に際しても退官資金等を得らるのみならず恩給請求の權利を有し又敍位敍勳の御沙汰をも拜することを得るに至れり此一事は以て女子雇員獎勵上必ず好影響あるべきは勿論にして是全く襄に遞相の實地視察に依る賜と謂ふべきなり

△女子雇員の中には女子大學の卒業生、高等女學校の卒業生等少からず此等の登用方法は原則として通信手試驗規則に依り試驗の上特別任用令の試驗規則に依り採用せらるゝこととなるべしと信ず而して目下の處外部との交渉(窓口を除く)には當らしむることは斷じて之なかるべしと信ず云々と話されたり

第卅三回作歌集
題　詠史
選者　大口鯛二氏
規定　一人一首綸葉書に認める事
優等の作歌は八月二十日發行本紙上にて披露すべし

第廿六回短文集
題　意見
選者　編輯局同人
規定　百八十字限り用紙葉書
優等の作は八月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第四十回俳句集
題　蟲
選者　編輯局同人
規定　一人一句綸葉書に認める事
優等の句は八月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第七回新體詩集
題　雷
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの用紙葉書
優等の作は八月二十日發行の本紙上にて披露すべし

締切八月五日限り

◉本郷婦人會　同區には是れまで婦人會と云ふものなく單に古市博士夫人、佐藤少將夫人、秋間爲子、牧田ます子等の各婦人が本郷區兵事義會婦人部員と云ふ名目の下に附屬し居たるが、平和克復と共に同婦人部は全然解散して改めて本郷婦人會と云ふ一種の慈善團體を組織することに定まり遂此の程(一)陸海軍人にして傷痍、疾病の爲め廢兵となり生計困難なるものを救濟する事(二)入營兵士の家族老幼又は病者にして生計困難なるものゝ救濟を爲す事(三)區内市立學校(代用學校も含む)の生徒にして勉勵衆に超え成績最優等たるの證を得たるものに對し賞品を贈與する事(四)區内居住者にして正當の事故にて貧困に陷りたるものゝ救濟を爲す事等の規約を定め會長には陸軍々醫總監佐藤進氏夫人靜子を推して大に活動すべしとの事なり

◉將校婦人會の新事業　[illegible]

◉佛教婦人救護會の救恤　佛教婦人救護會は去る十六日午後一時より本郷湯島靈雲寺に於て市内各區廢兵并に戰死者遺族等にして生計困難者百十一人に對し救恤金四百四十四圓を贈與する由

◉音樂協會講習會　神田錦町三丁目女子音樂學校内音樂協會にては八月一日より三週間夏季講習會を開く講師山田源一郎、神戸絢子氏等

◉音樂遊戲黑板畫講習會　神田區表神保町一番地國民教育學會にて幼稚園保姆常科訓導の爲め講習會を開く

◉女子園藝講習會　女子商業學校内に於て開く其科目左の如し

果樹蔬菜花卉　園藝　原　熙
西洋料理　作間餘三郎
外　鈴木行三　木村留吉
養鷄　山崎德吉
家庭看護及女禮式　秋間爲子

◉シンガーミシン裁縫講習會　麹町區有樂町三丁目一番地のシンガーミシン裁縫女學院にては八月一日より卅一日まで夏季講習會を開く

◉夏期唱歌講習會　來る十八日より二十一日迄毎日甲乙二部に分ち甲組は午後四時より六時迄本郷春木町中央會堂に於て又乙組は午前九時より十一時迄四谷内藤町東京唱歌學校事務所に於て夏期唱歌講習會を開く由

◉裁縫教授法の夏季講習　神田橋外なる東京女學校講習會は本月二十六日より八月一日まで毎日午前三時間づゝ裁縫教授法の講習會を開く講師は東京府女子師範教員小谷野千代子氏なり

廣告

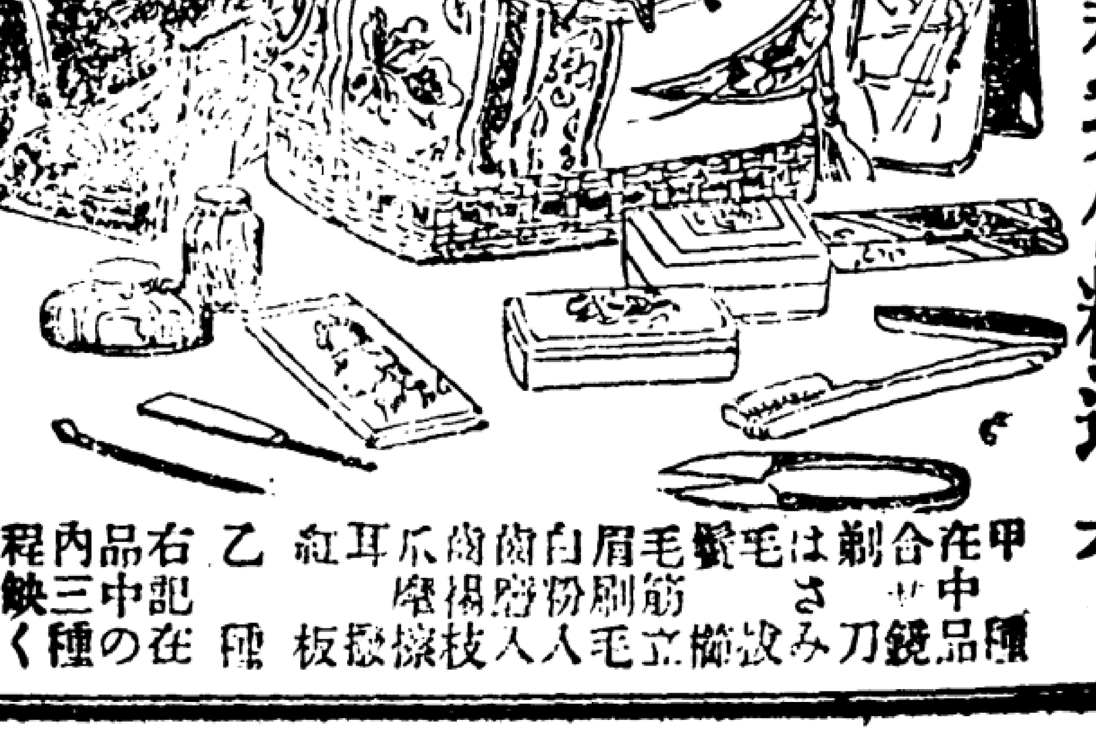
家庭之友

第四卷第四號(七月發行)要目
▲子女の戀愛に對して親は如何にすべき乎(鳩山春子君—安部磯雄君—宮田修君—三宅龍子君—海老名彈正君)▲子供の喧嘩に就て▲おもちやの與へ方▲先生とおッかさん▲ビショップドンスの縫ひ方(岩井かほる子君)家庭料理附一人前の費用(宇山禄子君)▲辨當のお菜…(一週間の献立)▲家政問答　羽仁もと子)
定價一冊六錢・一年分十二冊郵税共前金六拾錢・版元
東京駒込西片町内外出版協會

商品目録定價表　御申越次第送呈
意匠新新
櫛、かんざし
リボン、ヘーアピン、
サイドコム
美術小間物商　三ツ井屋
東京市神田區須田町十番地
電話本局二〇七六番
支店　神田神保町東明館内　新橋ぎわ博品館内

今回本店發賣の化粧道具は圖の如く煤竹を編みし籠へ堅牢なる古代更紗を縫付け開閉自在なるやう細紐を用ひ中に別記化粧具一式を裝置しあれば貴婦人令孃方の御旅行には御便利のみか高雅なる御携帶品にて殊に中元暑中の御進物用には至極上乘の佳品にて御座候
○定價甲種金十圓　○乙種金五圓
○送料内地金十錢　清韓臺灣金三十錢
東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎
電話新橋五五一番

旅行携帶用　新案化粧道具



甲種在中品　合せ鏡　剃刀　はさみ　毛拔　毛髮櫛　眉筆　白粉刷　齒磨　齒楊枝　爪ノ小刀　耳掻　紅板
乙種　右記在中の品中三種缺く程

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醸造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電信略號（キハク）又（ヘハク）

最上醤油　キハク印

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

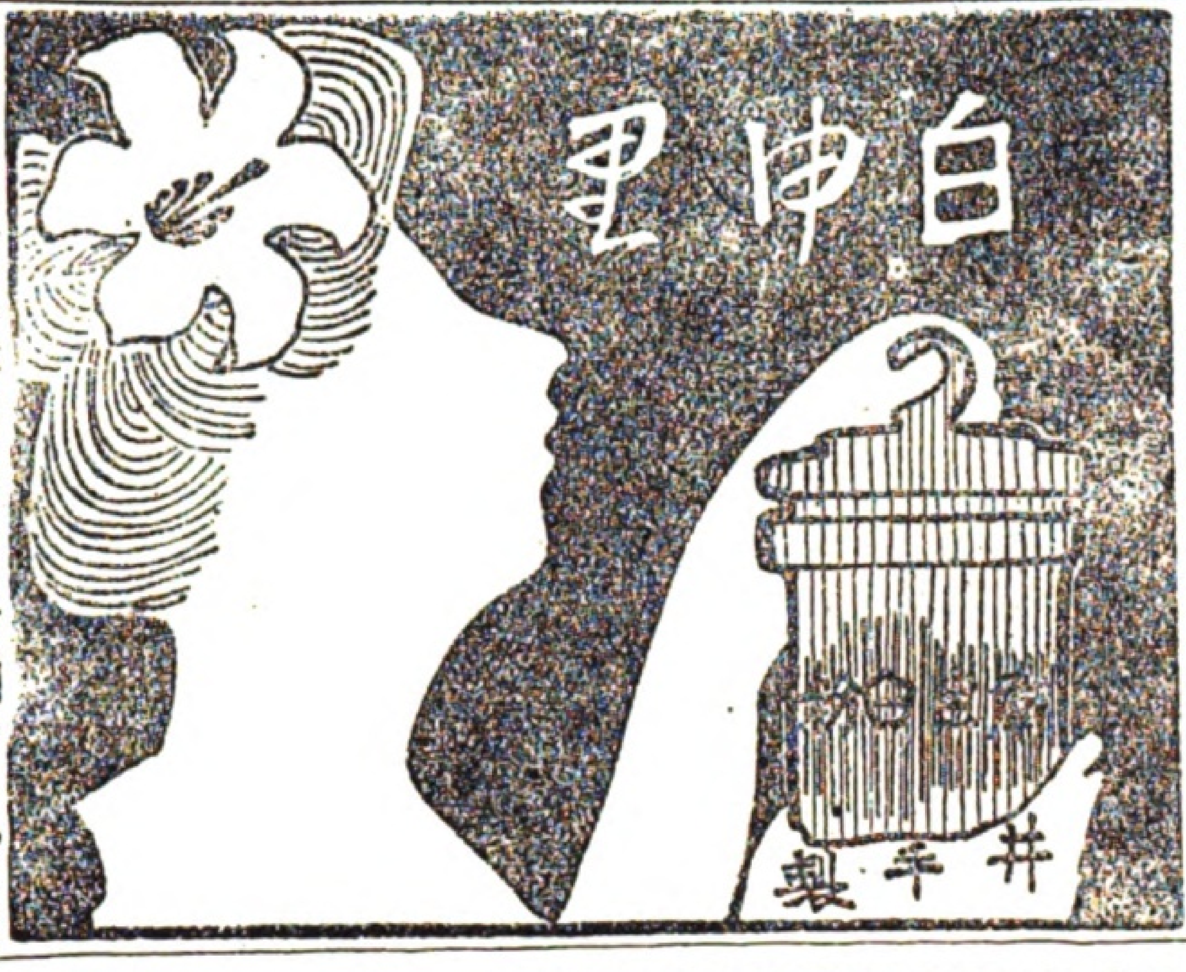
キハク印
醤油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七番

此の洗粉は米國最新最良要選原料を以て精製したるものなれば自ら皮膚を滑らかにし其色を白くす

東京牛込　山本玉川堂

佛國パリー直輸入
ピンク白粉
芳香頗ル高評
輸入元　東京市日本橋區小傳馬上町　倉田山海堂



白ゆり白粉は東京市内にて賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる
白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ品なり

正札附陳列場
西洋小間物　帽子各種　婦人用小間物
中久商店
東髮用具　内外化粧品　玩具文具
東京神田小川町通り　裏神保町一番地

暑中御進物用品各種

東京市橋町四丁目　丸見屋商店　電話浪花四四八

温泉案内

温泉名	効能	所在地	鐵道線名	降車驛
鹽澤温泉	癩氣打撲症等	鳳來村	中央官線	甲府
田澤温泉	萬病	田澤町	篠ノ井線	西條
淺間温泉	僂麻瘵斯痛風	山邊村	同	松本
成東鑛泉	胃腸病	成東町	總武線	成東
熱海温泉	胃腸子宮肝臓	熱海	東海道線	國府津
湯河原	萬病	吉濱村	同	同
箱根七湯	有名なれば略	箱根	同	同
志太温泉	胃病子宮皮膚	青島村	同	藤枝
有馬温泉	腫物皮膚其他	有馬村	同	住吉
布引鑛泉	僂麻質斯子宮	葺合村	同	三ノ宮
修善寺	肺炎胃加答兒	修善寺	豆相鐵道	大仁
寶塚鑛泉	萬病	寶塚	阪鶴鐵道	中山
道後温泉	同	道後町	伊豫鐵道	道後
武雄温泉	慢性胃病肺病	武雄町	九州鐵道	武雄
別府温泉	同	別府村	同	宇佐
武藏温泉	同	天拜山	同	二日市
鹽原温泉	同	鹽原村	奥州線	西那須
那須七湯	胎毒疾毒其他	那須野	同	黒磯
飯阪温泉	萬病	飯阪町	同	長岡
穴原温泉	同	穴原村	同	同
青根温泉	同	青根村	同	白石
大鰐温泉	同	大鰐村	同	盛岡
湯田温泉	同	湯田村	同	[illegible]岡
淺蟲温泉	同	淺蟲村	同	淺蟲
湯本温泉	同	湯本町	海岸線	湯本
伊香保	同	伊香保	兩毛線	前橋
四萬温泉	同	四萬村	同	同
澤渡温泉	同	澤渡村	同	同
草津温泉	同	草津村	同	同
藪塚温泉	同	藪塚村	同	桐生
日光湯本	同	日光山	日光線	日光
高湯温泉	同	庭阪	奥羽線	庭阪
磯部温泉	同	磯部村	信越線	磯部
別所温泉	同	別所村	同	小諸
赤倉温泉	同	妙高山	同	田口
山中温泉	同	大聖寺	北陸線	大聖寺
山代温泉	同	同	同	同
和倉温泉	金創疝氣痔病	和倉濱	同	七尾
登別温泉	萬病	登別	北海鐵道	登別

海水浴場案内

稻毛　總武線稻毛驛にて降車、風景舞子濱に酷似せり
銚子　同線銚子驛にて降車、太平洋に面して眼界廣濶
北條　房總線大原驛にて降車、又東京より汽船便あり
茅ケ崎　東海道線茅ケ崎驛にて降車、近年客頗る多し
大磯　同線大磯驛にて降車、風光明媚遊樂の好適地也
逗子　横須賀線逗子驛にて降車、奇を極め美を盡せり
葉山　同驛にて降車、長者ケ崎に長者園あり風光極美
須磨　山陽線須磨驛にて降車、舞子明石共に有名なり
高濱　伊豫鐵道高濱驛にて降車、伊豫富士を望む最佳
大洗　海岸線水戸驛にて降車、青松白砂綺を見る如し
助川　同線助川驛にて降車、旅亭には松風館あり瀟洒
川尻　同線川尻驛にて降車、助川と共に風景を稱らる
久の濱　同線久の濱驛にて降車、海水浴場兩三所あり

群馬縣師範學校長　羽田貞義
新潟縣長岡高等女學校教諭　小澤金十郎　兩先生

母のための教育學

全壹册　和裝美本　定價金五拾錢　郵稅金六錢

本書は著者が學理を緯とし經驗を經として懇切に家庭教育を說かれたる無二の良書也家庭教育を全ふせしめ以て一家の繁榮と社會の幸福を增進せしめんと欲する母たる人又は將來母たらんとせる人苟も家庭教育の任に當る人は本書を讀まざるべかず學校教育の完成を期する者も亦本書を讀まざるべからず如何となれば家庭が如何なる主義方針で教育しつゝ居るか又教育せんとするかを知るは教育家に最も必要なる要件なればなり

一、本書は家庭教育の範圍を最も廣く解し第一胎教、第二小學校以前の家庭教育、第三小學校時代の家庭教育、第四小學校以後の家庭教育の四期に分ち之れを科學的に說明せるにあり
二、心身の發達を基礎として各時期の體育智育德育を說きたるにあり
三、文章を談話體にして解し易からしめしこと
四、餘論として道德の概念心理概論及教育の方法を說きたり殊に心理學を著者の經驗上より具體的に說き難解の心理學をして容易に解せしむるに勉めたりし事等にあり

發行所　東京市京橋區南傳馬町　目黑書店

（ラクダ印）

ラクダ印麝香石鹸　麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべきの香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣身体は元より手拭、タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は微部さしてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる特點を有す　一大
定價　大形廿錢　小形拾錢
熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地　芳香藥種問屋　井上太兵衛

めりんす友染

日本橋區芳町　美術染呉服地本舗　玉川屋　電話浪花五八八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人世界

◎第七號　七月三日發行　好評忽ち賣切再版成る

◎婦人の日常生活法　村井弦齋

▲裁縫は如何にすべきか
▲家庭て何を縫ふべきか
▲洗濯は如何にすべきか
▲炊飯の用意は如何に：
▲辨當は如何に拵ふべき
▲入浴は何時が宜きか：
▲入浴の順序は如何に：
▲風呂の水は何が宜きか
▲浴後は如何にすべきか
▲爪は如何に剪るべきか
▲爪は如何に檢査すべき
▲買物は如何にすべきか
▲金錢は如何に取扱ふか
▲心の食物は何が宜きか
右は弦齋居士苦心の述作

◎弦齋夫人の季節料理談
◎暑中休暇の利用法
◎小兒夏期の衛生（適切）
◎子宮内膜炎の話（實際）

◎價拾五錢郵税壹錢五厘　六冊郵税共九拾錢

東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社

美人ムスク石鹸

此全形ナキ物ハ模擬ナリ

美人ムスク白粉

東京市日本橋區新和泉町　輸入元　桑原花生堂

最新流行

和洋造花は其妙造化の眞を奪ふ

精密裁縫機械は緻密の裁縫に最妙

高等化粧品は紳士淑女交際家の不可缺品

特許蒸氣こては高尚優美使用簡便

輸入雜貨は最新の流行　價格は低廉

神田區須田町廿三　近藤商店（電話本局七〇六番）

暑中御進物用

壜詰清酒　世界長　半打以上化粧箱入　二本はボール箱入

夏季は純良なる酒を撰ばざるべからず

日本橋區てりふり町通り堀江町四番地

發賣元　高橋商店（電話浪花一五六一番）

農産種苗定價表　無代進呈

農産、林産、觀賞、植物　木類種子及苗

數千種中細密なる木版書百餘を入れ是に解說と代價を附たり御入用の方へは無代進呈す

東京内藤新宿停車場際

内外農産種苗問屋　耕牧園

同業者に限り卸賣相場表呈す

帝都唯一受賞袴

小町印　學生袴

卸部　日本橋區彌生町　永井本店　電話浪花一八四一番

小賣部　神田南神保町　永井支店

各新聞の論說

此一欄に採取する處を一覽すれば社會の新らしき思潮を知る事を得可し

時事新報

△露國の憲政（國會と政府との成行を論ぜり）
△下水道の築造（東京市下水の不行屆を責む）
△所謂青年の煩悶その原因は如何
△政府の出版物を發賣す可し（調査報告の販賣を求む）
△英艦隊に對する個人の歡迎（其の方法と注意）

東京毎日新聞

△紳士の好風（ムーア中將靖國神社に詣づ）
△英國政界の暗示（埃及問題に對する討議）
△學生夏期の修養（地方生活と山野の跋渉を薦せ）
△日佛國情融解の好風（極東の軍備撤退論）
△韓國の教化（同事業の不振を責む）

日本

△農商務省違憲問題（肥料取締法施行）
△軍備縮少の先驅（英國陸軍大臣の宣言）
△外賓歡待と華族（庭園及び寶物を觀覽せしむ可し）
△英米の我儘（滿州問題に對する不穩の行動）

國民新聞

△社會問題（英國に於ける言論界の趨勢）
△保護政策と造船業（保護に對する實行なし）
△航海業者の競爭（日本郵船とロイド會社）
△清國に關する誤解（歐米人の神經刺擊）

讀賣新聞

△無政府黨の鎮壓（列國會議開催せらる）
△大學教育の趨勢（農科志望者の奨勵）
△音樂學校の位置（夜間演奏に便なる場所の撰定）
△法律と德義（同名雜誌東亞の光に對する評論）

二六新報

△女子と判任官採用
△歐洲政局の觀望（歐洲各國の外交界が列國均衡主義の弊を脱して新方面を開展せんとする機運を論ず）

萬朝報

△米國の誤解（我滿韓經營に關し不平を鳴らしつゝありと云ふ米國人の誤解を闡明せり）

東京朝日新聞

△英國の軍備縮少（英國新内閣が陸軍縮少策に付て評論せり）

報知新聞

△日本と英露協商（題目の如き問題に付て論ぜり）

肥後名産　▲朝鮮飴賣出

▲朝鮮飴の特質

◎滋養に富み消化容易なれば老幼弱體の人及び病者に尤も適切の食料品なり

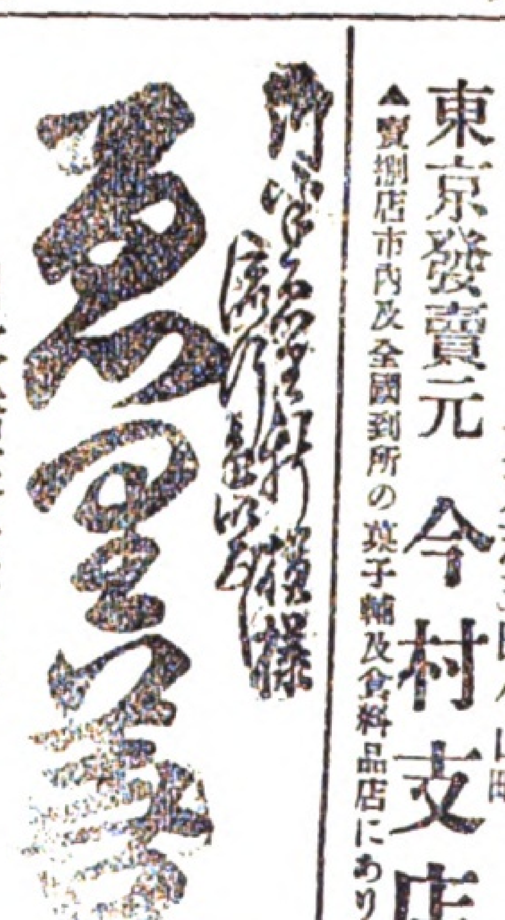
◎如何なる嚴寒極暑と雖も風味に變化なく如何に永く保存するも乾固腐敗の憂なきは堅く保證する處なり

◎適度に用ゆれば食糧の代用となる之れ今回日露戰役に陸海軍より多額の御買上げありし所以なり尚本品の佳良なるは衞生試驗所其他諸大醫の證明及び諸新聞の好許に依り明らかなり

元祖製造所　肥後熊本迎町　今村本店

東京發賣元　東京芝三田小山町　今村支店

▲賣捌店市内及全國到所の菓子舗及食料品店にあり



日本橋葺屋町四　電話浪花一二七〇番

ケーバ香水

◎小瓶廿五錢　◎大瓶壹圓

◎賣捌所は全國到る所にあり御買上を乞

春夏用ショール　フラネルセル地　見本呈ス

旅行用毛布チリヨケ外套車用膝掛種々其他

洋織物、裁縫物ケット、敷物類何なりと御座候

ツカタヤ

東京湯島切通下　電下谷一三一四

諸官省御用

蚊帳・夏ざぶとん　夜具蒲團

街鐵も外濠線も小川町東明館の前下車を乞ふ

東京神田區表神保町　矢田商店　電話本局二千十八番　市内無賃配達

●品質保險附●正札引なし●縫目なし蚊帳

有日本銀行前勸業協會へ蚊帳出品即賣致居候

●工學博士平賀先生試驗證明

延金細工品は黄金の延板を以て製し中身に純銀其他の重金屬を用ひあれば頗る重くして美麗永年變色せざる請合

ゆびわ類　時計用鎖　根掛簪類　洋服飾釦　帶留金具　蟇入金具　徽章帽章　時計磁石　眼鏡種々

延金細工

本品の美觀と丈夫は世間既に定評あり何人も試給へ見本のゆびわ僅か一圓六十錢時計鎖金三圓九十錢眼鏡二圓九十錢送料十錢

東京日本橋十軒店　東京土産商會

ホワイト裁縫ミシン使用法

◎第貳回夏期講習會

▲會場　東京麹町區富士見町壹丁目廿五番地ホワイトミシン裁縫研究會内

▲會員　壹百名限り

▲開期　來ル八月十七日ヨリ同卅一日迄（規則書郵券二錢）

◎ホワイトミシン裁縫研究會

▲會場　同上

▲修業期間　十五回卒業

◎毎週日曜午前十時開會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會員大募集——目下入會の最好機なり

新學期開始

▲事情があつて高等女學校に入る事の出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けます

▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません、本會の講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いようにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を毎號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ教育に充分經驗のある方のみです、講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は觀しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です

▲本會講義錄は右に述べた通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都合一ヶ月の遊學費で優に全期を終はる事ができます

大日本淑女學會

高等女學校程度の講義錄發行

批評一斑

▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也

▲毎日新聞評　米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり

▲二六新聞評　高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり

▲日々新聞評　講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり

▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し

▲報知新聞評　講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也

上揭の批評を御覧にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲本會規則書▼　端書にて申込あれば直に郵送す可し

◎東京神田南甲賀町　大日本淑女學會　電話本局三千四番

日本第一の大勸業場

(本場の特色)

◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃で配達致します

◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角　電話新橋(一六五二 二三六一)

帝國博品館

めをぬくし

●色白く艶をだす

松澤ホーサン石鹸

(大形一個廿錢 小形一個十錢)

●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意

●當市內は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

東京本石町四丁目　芳香藥種問屋　ムスク香水本舖　松澤常吉

大評判のクラブあらい粉を御婦人の愛用頗る盛なり

帝國化粧品倶樂部

●東京は三越呉服店を始め信用ある市內各町化粧品販賣店に有

●大阪は十合呉服店を始め信用ある市內各町化粧品販賣店に有

英國最新輸入

眞正無類

クイーン白粉

高等香油　クイーンオイル

本舖　東京　三井花陽堂

夏季向呉服太物類一切

店內漏れなく陳列致置申候間多少に拘はらず御用命被下度奉願上候。尚目下大流行の

中形浴衣地　は柄合の嶄新なるものを撰び

小間物化粧品類　は最新流行の品々極めて格安に販賣致し居候。尚地方御得意樣の御注文は、可成鄭寧親切に御取計可申上候

地方御注文案內書　は御一報次第早速御送付可申上候。

東京日本橋區駿河町

三越呉服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局 三、三〇〇番 四一番 （特）三七番 一〇二番
一定期預金 年五分
一當座預金 日歩七厘
一特別當座預金 日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

高等箪笥
長持類一式
蟲害豫防實施
數代の老舗
正札附販賣
箪笥目錄進呈
東京市日本橋區小傳馬町壹丁目
長持屋 長谷川箪笥店
電話浪花一千四百三十五番

スコット乳菓

小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ

説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号スコット乳菓部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

天下一品
最上醬油
醸造元 千葉縣野田町 茂木佐平治
賣捌所は各地とも有名なる酒醬油店に有之候

袴乃親玉

卸部 東京日本橋區長谷川町 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
小賣部 本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店 電話下谷一四一五番
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

金銀時計
寶石類貴金屬
美術品
東京市日本橋區通三丁目角
大西時計店
電話本局一六八六番

電話四千百三十九番

目
夏模樣牛ゑり帶揚類
花草水 崎新染 浴衣地帶片側
○夏レースショール○裾模樣け出し○帛紗
○夏ネキタイ○しぼり染兵兒帶○伊達まき
○長襦伴○襦袢袖○下締め○しごき○手柄
○有効受賞まげ入○高等洗粉チエリー香入
○内國特獨
新橋竹川町十二 電新二〇二七 本店ゑり治
神田表神保町壹 電話本九五二 支店ゑり治
新橋際博品館内階下 ゑり治出張店

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保徳太郎
婦人科産科 榊病院
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）
毎日午前診察 毎日夕刻診察

内科小兒科 特に吸呼器病
ドクトル 川瀬元九郎
麴町はやぶさ町二十八番地
電話番町八二二番

産科婦人科 楠田病院
東京日本橋區濱町三丁目七番地

小兒病診療
醫學士 内田愼太郎
淺草區福井町貳番地
宅診午前 往診午後
電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番
午前診察 午後往診

産科婦人科專門 ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
東京病院 二各科 診察從前の通
芝愛宕町 新二六四 同二六二〇

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長 ドクトルメヂチーネ 峰秀世

東京神田錦町參丁目 電本七一五
山口眼科病院
診察午前午後 入院隨時
院長 醫學士 山口秀高

内科一般
東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
板垣亭
電話本局貳千九百七十番

夏期診察 電話下谷二三四二
專門 男女 尿道膀胱病 黴毒 生殖器科
時間 午前八乃至十二時 午後四時乃至八時
本郷湯島新花稲荷祠前
下平尿科醫院

産婆 本郷團子坂 井上みや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸堂
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜社
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用ワッセル

◉此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳匁入）一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳匁入 金拾五錢　六匁入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉ワッセル

◉此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

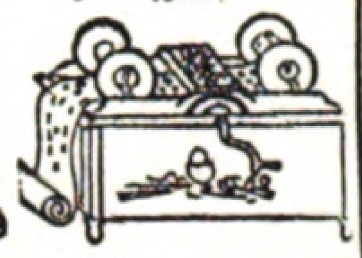
東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二
英國製ワッセル日本一手販賣元　御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
三友商會

暑中御進物用
◉ハンカチーフ 絹綿麻 各箱入
◉クレープシャツ
◉婦人小兒用帽子
◉上衣キャンバース
◉洋傘手袋沓下類
◉敷布用タヲル切地
◉精巧舶來人形各種
◉洋花リボンレース
◉旅行用化粧道具
◉外西洋小間物一式

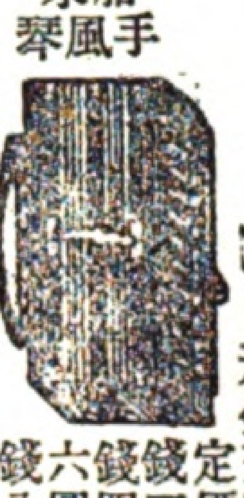
東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與 三枝小賣店
電話新橋三九二七番

歐米化粧品輸入商
東京濱町一丁目　電話浪花一一〇一
平尾分店
香油ゴールドパールオイル發賣元

無師獨奏 紙腔琴



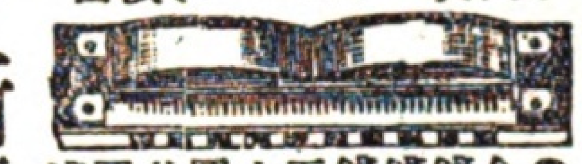
舶來手風琴



◎配用曲譜二百五十餘種出來
●定價 大形上製金十五圓 ●同中製金九圓七十五錢 ●小形金五圓
定價三圓卅錢 三圓五十錢 四圓五圓 六圓七圓半 八圓十圓

◎舶來バイオリン新着

西洋（ハーモニカ）横笛



●定價 金卅五錢 四十錢 五十錢 六十五錢 七十錢 一圓 一圓廿錢 一圓五十錢以上

◎西川製風琴

◎大聲蓄音器定價卅三圓五十五圓六十五圓
◎平圓盤發音器定價金廿五圓卅七圓金五十三圓金八十圓

教育的 高等玩具 新荷着

東京銀座三丁目二番地
十字屋樂器店

新公論

一冊定價十二錢

發行所　東京本郷區東片町
新公論社

消化新藥

▲前略小生は平素消化機不全にて、食慾常に不振、加ふるに時々醱酵下痢を發する等の事あり、從つて體質虛弱に有之候に付、貴下がタカヂアスターゼを公表相成候以來、喜んで之を試用致候處消化機關は忽然一變し、食欲亢進、便通整理、從つて營養は著しく改善仕候、小生が該劑の使用を持續する一ケ年の後に至り**體量三貫目**を增加したるを以て、爭ふべからざる實證と存候依つて小生は本劑の消化不振に對する缺くべからざる良藥なる事を確信仕候ものに御座候

醫學博士 淺川範彦

滋養新劑 グリコナール錠
肺病

本品はドクトル佐伯矩氏が北里博士指導の下に人體營養の必要成分として近世の醫學界に尊重せらるゝグリコゲーン製法研究中發見創製せるもの大量のグリコゲーン及蛋白脂肪を含有し完全なる滋養品なり數多の醫學者は既に實驗上其効顯を承認せられたり其他衰弱せる病者本劑を服用せば心臟及脉を强め盜汗を治し速に體力を恢復して元氣亢進す
▲本劑の說明書は御申越次第無代送呈す
東京市南茅場町二　三共商店藥品部

戰勝紀念ピン

銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
定價　純銀製 一個 金三十五錢以上　餘は御好み次第迅速調製可仕候

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達　玉寶堂
東京市下谷區池の端仲町
電話下谷 特九六五番 一二四四番

お送りにあるペーパはこれです
水でぬらせばよくはがれます

ムスク香水五週年紀念
化粧の栞 無代進呈

ムスク香水も本年は日出度五週年を迎び候に付紀念として中瓶（六十五錢）御買求め首張りペーパをはがして本舗へ御持參又は郵券二錢御添へ御送り被下候方へは化粧の栞と申御婦人方に最も御利益なるほんを壹冊進呈します
（進呈期限は本年七月三十日まで）

本書は菊半截口繪五葉付紙數四十ページよりなる美術的小冊子なり其目次▲化粧の順序▲白粉の塗け方▲紅の付け方▲眉の引樣▲毛生際と額▲化粧と水の撰擇▲水の温度▲其他化粧品目
（大瓶壹圓 中瓶六拾五錢 小瓶廿五錢）

ムスク香水は全國到る所賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

本舖　東京日本橋區本石町四丁目
松澤常吉

斬新材料
舶來薄絹シホン
ホワイトリープス
郵券五錢御送付相成候はゞ見本進呈可仕候

各女學校御用
附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛　電話（長）浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

明治三十九年七月廿日發行（毎月五日二十日二回）
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　東京麹町　愛國婦人發行所
印刷所秀英舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN